主　催　全国川サミット連絡協議会
岩手県一関市（第29回全国川サミット in 一関実行委員会）

後　援　国土交通省東北地方整備局、岩手県、宮城県
一般社団法人東北地域づくり協会、一関市教育委員会

協　賛　東北直轄河川治水期成同盟会連合会、北上川上流改修期成同盟会
北上川改修促進同盟会、北上川ダム管理協議会

事務局　一関市、公益財団法人リバーフロント研究所

お問い合わせ
第29回 全国川サミット in 一関実行委員会事務局
（一関市建設部治水河川課）　TEL 0191-21-8501

第29回 全国川サミット in 一関

黄金（くがね）花咲く北上川 ～悠久の歴史と未来～

報告書

河川基金　公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

目　次

Ⅰ　開催概要

全国川サミットとは …… 2
開催テーマ …… 3
参加自治体紹介 …… 4

Ⅱ　実施内容

現地視察 …… 11
令和２年度　全国川サミット連絡協議会総会　次第 …… 12
全国川サミット連絡協議会総会 …… 13
国土交通省　講演 …… 14
首長サミット …… 15
歓迎交流会 …… 27
全国川サミット in 一関　開会式 …… 28
事例発表 …… 29
記念講演 …… 32
サミット宣言～閉会式 …… 33
全国川サミット in 一関　共同宣言 …… 34

Ⅰ　開催概要

全国川サミットとは

川サミットは一級河川と同じ名称または一級河川の流域にある全国の自治体が「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを生かしながら、川と共存するまちづくりを共に進めることを目的に、加盟自治体が持ち回りで開催しています。

全国川サミット開催のあゆみ

回数	開催地	開催テーマ
第1回	富山県 庄川町	川は未来に夢はこぶ
第2回	北海道 鵡川町	きらめきリバータウン ～川と人の未来を求めて～
第3回	静岡県 大井川町	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～
第4回	兵庫県 加古川市	川は友だち ～ひと・まち・川　ちょっと素敵な物語～
第5回	徳島県 那賀川町	未来へ語ろう！ 私たち川家族
第6回	秋田県 雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第7回	宮崎県 北川町	思い出いっぱい　不思議がいっぱい ～川を彩るホタルの光が子どもたちへの贈り物～
第8回	愛媛県 肱川町	21世紀へのメッセージ ～それは川から始まる～
第9回	三重県 宮川村	川に愛される人になりたい ～ちょっとすてきな川家族～
第10回	兵庫県 揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう　川の未来　水の未来～
第11回	東京都 江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわいの川 ～都市の中の川を考える～
第12回	岡山県 加茂川町	森と川が伝えるふるさとからのメッセージ ～水は生命の源～
第13回	奈良県 十津川村	みんなで考えよう！河川環境
第14回	兵庫県 猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川50年～
第15回	岐阜県 揖斐川町	川面に暮らし　川とともに生きる
第16回	東京都 江戸川区	川の恵みとその脅威
第17回	群馬県 みなかみ町	川を活かしたまちづくり・川と交流
第18回	秋田県 横手市	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第19回	兵庫県 加古川市	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第20回	新潟県 長岡市	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第21回	茨城県 取手市	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第22回	長野県 川上村	流域文化に学ぶ
第23回	千葉県 香取市	歴史から学ぶ 川と私たちの暮らし
第24回	新潟県 新潟市	川が創った大地 ～水と土が紡ぐ歴史～
第25回	福島県 喜多方市	上流は下流を想い、下流は上流を敬う ～私たちの生活を支える大切な川～
第26回	高知県 四万十市	川とともに生きるまち
第27回	広島県 三次市	地域の誇れる川を未来へ
第28回	宮崎県 宮崎市	母なる川と　ともに
第29回	岩手県 一関市	黄金花咲く北上川 ～悠久の歴史と未来～

開催テーマ

黄金（くがね）花咲く北上川　～悠久の歴史と未来～

北上川流域の黄金文化の歴史は深く、西暦749年に涌谷町で国内初の金が産出され、奈良・東大寺の大仏に使用されるなど、日本の歴史を支えてきました。中でも平泉・奥州藤原氏は、北上川流域のみならず西和賀町の鷲之巣金山や陸前高田市の玉山金山を始めとする気仙４大金山からの金の採掘により、平泉の黄金文化を築き上げるなど、北上川を中心に黄金文化を形成しています。

涌谷町で金が産出された際、大伴家持は「天皇の御代栄えむと東なる陸奥山に黄金花咲く」という歌にて、天皇の御代の繁栄のしるしとして、みちのくに黄金の花が咲き誇っていると詠んでおり、万葉集にも記されています。

第29回全国川サミット in 一関は、流域が誇るこの黄金文化の発展に着目し、開催テーマを設定しました。

全国川サミットの開催を機に、川がもたらす歴史・文化の形成を全国に発信するとともに、改めて河川の役割や恵みなどについての理解を深め、未来に向けた河川の姿を追い求め続けていくために、川がつなぐ地域の結びつきを強めていきたいと願っています。

岩手県

一関市（いちのせきし）

一関市は、東北のほぼ中心に位置し、仙台市と盛岡市の中間でもあり、古くから交通の要衝として栄え、岩手県南、宮城県北エリアの中核都市として発展してきました。

広い市域の中には、西方に栗駒国定公園栗駒山や名勝・天然記念物厳美渓、東方には県立自然公園室根山や名勝・日本百景猊鼻渓、館ヶ森高原エリアなどの優れた観光資源に恵まれています。

さらには、古くから伝わる室根神社特別大祭や一関市・大東大原水かけ祭り、広く全国に発信している一関夏まつり、全国地ビールフェスティバル in 一関、かわさき夏まつり花火大会「おらが自慢のでっかい花火」、縄文の炎・藤沢野焼祭、一関・平泉バルーンフェスティバル、もちフェスティバルのほか、せんまや夜市、唐梅館絵巻など数多くのイベントが開催されています。

名勝・日本百景猊鼻渓

一関・平泉バルーンフェスティバル

秋田県

横手市（よこてし）

秋田県の内陸南部に位置する横手市は、東は奥羽山脈、西は出羽丘陵に囲まれた横手盆地の中央に位置し、横手川と流域面積全国12位の「雄物川」が貫流しています。

秋田県の中でも有数の穀倉地帯で、お米以外にもりんご、ぶどう、さくらんぼ、スイカ、しいたけなど、たくさんの農産物が自慢です。また、ご当地グルメの祭典「B−1グランプリ」においてゴールドグランプリを受賞した「横手やきそば」など、食における横手ブランドが揃っています。

さらに、観光資源も豊富で、400年以上の歴史を持つ伝統行事「かまくら」をはじめ、明治初期から昭和初期にかけて建築された伝統的な町家や内蔵が多く残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「増田の町並み」や、40万枚以上のマンガ原画を収蔵する「マンガ」をテーマとした全国初の本格的美術館「横手市増田まんが美術館」など、多くの人々が訪れ、賑わっています。

横手のかまくら

増田の町並み（重要伝統的建造物群保存地区）

山形県

鮭川村（さけがわむら）

鮭川村は山形県の北部、最上圏域北西部に位置し、東西20km、南北12kmにわたる人口約4千人の小さな農山村です。

村の真ん中には村名の由来である「鮭川」が流れ、緑豊かな山々に囲まれた自然の宝庫です。春にはたくさんの山菜が採れ、夏は鮎釣りで多くの釣り人が訪れ、秋は多くの「鮭」が遡上し、各種きのこが収穫されます。村を象徴する「鮭川きのこ王国まつり」、「まるごとさけがわ鮭まつり」が毎年10月に開催され県内外から多くのお客さんが訪れています。

また、山形県の無形民俗文化財に指定されている「鮭川歌舞伎」は毎年6月に定期公演を行っており、現在は広く情報発信され全国から観客が訪れます。

まるごとさけがわ鮭まつり

鮭川歌舞伎定期公演

福島県

湯川村（ゆがわむら）

湯川村は、会津のへそとも言われるように会津盆地の中心に位置しており、国道や主要県道、会津縦貫北道路が通っている交通の要衝です。

勝常寺を代表とする歴史的遺産と美しい田園環境に恵まれ、「米と文化の里」と呼ばれており、福島県で唯一山林がない自治体で自然災害が非常に少ない地域でもあります。

村は、水稲を中心とした農業が盛んで、村が1枚の田んぼのような美しい景観となりますとともに、年間通じて田んぼの色が変化することから、四季折々の魅力に触れることもできます。

また、年間100万人以上が訪れる「道の駅あいづ湯川・会津坂下」では、お米はもちろんのこと、地元で採れた新鮮野菜や選りすぐりの特産品等もお買い求めできます。

湯川村の風景

勝常念佛踊り、新米祭

群馬県

みなかみまち
みなかみ町

みなかみ町は、群馬県の最北端に位置し、谷川岳、三国山などで新潟県との県境を画しています。

東京から直線距離で約150km。関越自動車道で2時間、JR上越新幹線で1時間20分と首都圏からのアクセスに恵まれています。

谷川岳に象徴されるように山岳が多く、面積の大部分を山林原野が占め、谷川連峰に源を持つ利根川が中央を南下し、月夜野地域で赤谷川を併せ、二つの川の流域に形成されています。また、利根川の源流域として五つのダムが設置され、東京をはじめとする首都圏の経済や生活を維持する大切な水源地域となっています。

地域の標高は、300mから2,000mまでにわたり、山間地としての特殊性がうかがえ、山岳、森林、高原、湖沼、河川、渓谷など変化に富んだスケールの大きい自然は、上信越高原国立公園に指定されているように、国内でも有数の観光資源であり、豊富な温泉やリゾート施設と相まって、年間400万人の観光客が訪れています。また、2017年には、自然と人が共生する取り組みが認められ、ユネスコエコパークに登録されました。

観光資源（一ノ倉沢）

観光資源（アウトドアスポーツ）

東京都

えどがわく
江戸川区

江戸川区は東京都の東端部に位置し、西に荒川、東に江戸川など七つの一級河川と海に囲まれた水辺環境の豊かなまちです。全国の親水公園の先駆けとなった古川をはじめ、区内には総延長27kmの親水公園、親水緑道が流れ、潤いのある快適な都市空間を実現しています。その豊かな水辺を舞台に、第11回サミット（in 江戸川）、第16回サミット（in 荒川）を開催させていただきました。一方、災害に強い江戸川区を目指し、区民の皆さんと協働でスーパー堤防整備などの治水対策にも積極的に取り組み、安全で安心なまちづくりを進めています。

また、来年に延期となった2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会においてカヌー（スラローム）競技の会場となっている江戸川区では、河川などを利用してカヌーの楽しさや水と触れ合う歓びを感じていただくカヌー体験教室を積極的に行っております。

江戸川区全景

カヌー体験教室の様子（新左近川親水公園）

愛知県

おかざきし
岡崎市

岡崎市は、愛知県の中央に位置する人口38万人の中核市で、北から南に縦断する「矢作川」、東から西に中心市街地を横断する「乙川」が流れる水環境に恵まれた地にあります。

古くは岡崎城の城下町、東海道五十三次の宿場町、多くの寺院の門前町として発展し、江戸幕府を開いた「徳川家康公」の生誕地であることなどから、岡崎城を始めとする貴重な歴史・文化遺産に恵まれています。

さらには市の花にちなんだ桜まつり、藤まつりを始め、岡崎城下家康公夏まつり（花火大会）、岡崎城下家康公秋まつり、家康公生誕祭などのイベント等も多数開催されています。

中心市街地を流れる乙川と桜城橋（さくらのしろばし）

岡崎城（桜まつり）

兵庫県

かこがわし
加古川市

加古川市は、兵庫県南部の瀬戸内海沿岸に位置し、一級河川「加古川」の恵みを受けた豊かな自然が広がっています。一方、臨海部には我が国有数の鉄鋼工場があり、播磨臨海工業地帯の一翼を担っています。

市民の憩いの場である加古川河川敷では、加古川市民レガッタ、加古川ツーデーマーチ、加古川マラソンなど、全国から参加者が集う市民参加型イベントを、四季を通じて開催しています。

市内には史跡が多く、聖徳太子が建立したと言われる「鶴林寺」には国宝などが多数所蔵されています。また、市ゆかりのプロ棋士が多数活躍していることから「棋士のまち」を掲げ、若手の登竜門と言われる日本将棋連盟の公式戦「加古川青流戦」を開催しています。

ご飯にカツを乗せデミグラスソースをかけていただく「かつめし」は、市内100軒以上の飲食店で提供され、学校給食でも子どもたちが楽しみにしている加古川市民のソウルフードです。

加古川俯瞰

加古川市民レガッタ

愛媛県

おおずし
大洲市

大洲市は、平成17年1月に大洲市、長浜町、肱川町、河辺村の1市2町1村が合併し、新しい大洲市が誕生しています。市の中心部を県下最大の河川である「肱川」が流れ、瀬戸内海へと注いでいます。藩政時代は、六万石の城下町として栄え、その風情が残る町並みや鵜飼い、肱川より眺める大洲城、臥龍山荘、冨士山などの景観により「伊予の小京都」「水郷大洲」と呼ばれています。

肱川は、源流から河口まで至る所で大きく方向を変えつつ流れているため、勾配が緩く、豊かな水量と緩やかな流れが特徴的な河川です。また、大洲盆地から下流は山が両岸から迫り、河口に行くほど平野の広がりがない地形になっているため、度重なる水害に悩まされてきました。一方で、かつては舟運も盛んに行われ、沿川では、肱川からもたらされた肥沃な土壌によって農業が盛んに行われるなど、大洲は肱川の恵みによって栄えてきた町ともいえます。

肱川より眺める大洲城・冨士山

鵜飼い

宮崎県

みやざきし
宮崎市

宮崎市は、宮崎県のほぼ中央に位置し、太平洋に面する東側には約36kmにわたる海岸線が広がっています。黒潮の影響で寒暖の差が比較的小さく、全国的に降水の多い地域でありながら、日照時間が長いのが特徴です。

近年では、プロ野球やプロサッカーチームのキャンプ地としても知られており、観光資源のひとつとなっています。

また、宮崎市を横断し日向灘に注ぐ「大淀川」は九州で4番目に流路が長く、流域面積も九州で2番目の広さがあります。宮崎市が位置する下流部では、河川利用が盛んであり、カヌーや、高水敷での野球、サッカー等のスポーツのほか、花火大会などの各種イベントが開催されるなど、市民の憩いの場となっています。

その他、河口付近には、国内固有種で一部の地域でしか確認されていないアカメが生息しており、河口周辺の砂浜では、アカウミガメの産卵も確認されています。

橘公園と大淀川

堀切峠

岩手県

いわてまち
岩手町

岩手町は岩手県の北部に位置し、北上川の源泉の町としても知られています。

また、冷涼な気候の特徴を生かした県内有数の農業生産地域であり、特にキャベツについては東北一の生産量を誇っています。

岩手町ではホッケーを町技として普及させ、現在ではインターハイをはじめ、小中学校や社会人クラブチームも全国大会で優勝するなど、数々の輝かしい戦績を挙げ、五輪選手をはじめ全日本選手を多数輩出しています。

芸術文化の面では、彫刻家が腕を競ってつくり上げた石の彫刻作品を、町内各所においてその作品群を見ることができるほか、道の駅に隣接している石神の丘美術館を令和2年9月1日に「花とアートの森」としてリニューアルオープンさせるなど、岩手町は今後も新たな芸術文化の発信地としても期待されています。

北上川源泉・ゆはずの泉

東北一の生産量を誇る岩手町のキャベツ畑

岩手県

はちまんたいし
八幡平市

八幡平市は、平成17年9月1日、旧西根町・松尾村・安代町の3町村が合併し誕生しました。本市は、県都・盛岡市の北西約34kmに位置し、北は青森県田子町、西は秋田県仙北市、鹿角市に接しております。

北東北3県のほぼ中心にあり、古くから、秋田県や青森県へ通じる旧鹿角街道が発達しました。市内に3つのインターチェンジを擁する東北自動車道のほか、八戸自動車道へのジャンクションがあり基礎的な交通基盤が整った地域です。また河川も特徴があり地形上それぞれの河川は太平洋（石巻市と八戸市）と日本海（能代市）へ流れており、全国的にも珍しい分水嶺の地域となっております。本市の南側には秀峰・岩手山（2,038m）がそびえ、県内最高地点となっております。西部地域は、八幡平（1,613m）をはじめとする奥羽山脈が南北に連なり、観光地の一角を形成しています。また、岩手から秋田にまたがる国立公園八幡平の頂上付近にある鏡沼の雪解けの様子が、まるで龍の眼の様に見えることから「八幡平ドラゴンアイ」と呼ばれており、5月中旬から6月中旬の限られた時期に見られる神秘的な景色です。積雪量や雪解け、天候の状況などの条件がそろうと姿を現す自然の現象を見に是非お出かけください。最後に一つだけPRします。市の花は「りんどう」であり生産量（約2700万本）生産額（約11億円）日本一であり、ニュージーランドやチリ、アフリカのルワンダでの生産を始めておりグローバルな展開を図っております。

八幡平鏡沼「ドラゴンアイ」

雪の回廊「アスピーテライン」

岩手県

たきざわし
滝沢市

滝沢市は、盛岡市の北西部に位置する、稲、野菜、酪農等を主体とした都市近郊農業地帯で、平成12年には人口5万人を達成し人口日本一の村となりました。その後、平成26年に「人口日本一の村」から「住民自治日本一の市」を目指して市制移行し、地域の皆さんと行政が両輪となっての協働による市政運営やまちづくり活動に取り組んでいます。

市北西部には秀峰岩手山をいただき、雫石川、北上川が流れ、また岩手山の南麓には毎年多くの人が登山に訪れる名勝鞍掛山があり、四季折々豊かな自然を楽しむことができます。

初夏の風物詩であるチャグチャグ馬コをはじめ、チャグチャグ馬コふれあいまつり in 滝沢、チャグチャグ馬コ初詣など馬コを身近に感じられるイベントも多く、そのほか滝沢スイカまつりや滝祭、滝沢山車まつり、チャグチャグ馬コの里工房フェスタなど市の伝統や文化を楽しむイベントを開催しています。

チャグチャグ馬コ

滝沢スイカ

岩手県

もりおかし
盛岡市

盛岡市は、古くから盛岡城を中心に城下町として栄えており、明治22年、市制施行により、全国39都市の一つとして誕生し、インフラや交通網が整備されました。近年は、平成4年に都南村と、平成18年に玉山村と合併し、平成20年に中核市へ移行しました。歴史と伝統ある街並みや豊かな自然環境に恵まれながらも、高速交通や都市機能が集積する北東北の拠点都市として、さらなる発展を目指しています。

岩手山をはじめ、常に視界に緑があふれ、200km離れた海からサケが遡上する清流が中心部を流れています。南部鉄器や染め物などの歴史ある伝統工芸品が受け継がれ、「先人記念館」があるほど多くの先人を輩出しています。また、盛岡さんさ踊りをはじめとしたさまざまなお祭りが一年を通じて行われる文化の薫り高い街です。

盛岡さんさ踊り

いわて盛岡シティマラソン

岩手県

やはばちょう
矢巾町

矢巾町は、県内のほぼ中央に位置し、県庁所在地である盛岡市の南に隣接する田園都市です。東に北上川が流れ、西に南昌山をはじめとする奥羽山脈の山並みが連なる自然豊かな環境に加え、東北本線や東北新幹線そして東北縦貫自動車道や国道4号など交通面においても恵まれた町です。そして、平成29年3月に開通した矢巾SICや、昨年9月に開院した岩手医科大学附属病院などにより、町内外から益々の発展が期待されています。本年度は、「ウェルネス」＝健康で暮らせる町、「セーフティ」＝安全・安心に暮らせる町、「ダイバーシティ」＝多様性を認め合うことができる町の3つを施策の重点に据え、コンパクトで持続可能なまちづくりに努めています。

ひまわり畑

幣懸の滝

岩手県

しわちょう
紫波町

紫波町は、岩手県のほぼ中央、盛岡市と花巻市の中間に位置し、国道4号やJR東北本線など主要な幹線が南北に走り、高速道路のインターチェンジや三つのJR駅がある交通アクセスに恵まれた町です。

町内では、ブドウやリンゴなどの果樹、もち米、ソバ、豚肉、牛肉など農畜産物の生産が盛んで、地元の果樹を原料としたワインやサイダーなどの加工品も製造され好評を得ています。また、当町は南部杜氏発祥の地とされ個性豊かな四つの酒蔵もあります。

町中央部の紫波中央駅前では、公民連携手法を活用した「オガールプロジェクト」により、公共施設、民間施設、住宅地が集積したエリアが形成され、多くの人が来訪し新たな賑わいが生まれています。さらには、西部の東根山周辺エリアは、近年、トレイルランニングなどのアウトドアスポーツや登山が盛況で“美人の湯”と呼ばれるラ・フランス温泉館とあわせて人気があります。

自園自醸ワイン

オガールエリア

岩手県

はなまきし
花巻市

岩手県のほぼ中央に位置する花巻市は、宮沢賢治や萬鉄五郎をはじめとした著名な先人を輩出するほか、高村光太郎や新渡戸稲造の愛したまちとして知られ、偉人たちの足跡をたどることができるスポットが点在しています。

市の西部には奥羽山脈、東部には北上高地の山々が連なる雄大な自然や、東北有数の温泉地・花巻温泉郷、500年以上の歴史を誇る伝統芸能・早池峰神楽等、豊かなみどりと歴史・文化が息づくまちとしても知られています。

また、岩手県内唯一のいわて花巻空港のほか、東北新幹線新花巻駅や東北自動車道、東北横断自動車道などの交通網が整備され、高速交通網の拠点となっています。

花巻温泉

宮沢賢治童話村

岩手県

きたかみし
北上市

北上川と和賀川の合流する岩手県内陸南部に位置する北上市は、古くから人々の営みがあり、旧石器時代以降の遺跡をはじめ、平安時代に山岳仏教の一大聖地として栄えた国見山廃寺における遺跡など、数多くの歴史的文化財が残っています。

また、鬼剣舞をはじめ、鹿踊りや神楽など日本有数の民俗芸能団体を誇り、毎年8月に開催される「北上・みちのく芸能まつり」では、100を超える芸能公演が披露され、伝承を通じて地域の交流が生まれています。

加えて、宿場町として栄えた歴史をもち、県内でいち早く工業団地造成を手がけ、1960年代から企業誘致に力を入れてきました。積極的な誘致活動によって、これまで230社以上の企業誘致を実現しています。

陣ケ丘から展勝地を望む

北上・みちのく芸能まつり「鬼剣舞大群舞」

岩手県

とおのし
遠野市

遠野市は、岩手県の中南部に位置し、沿岸と内陸の結節点で、昔から人と物の交流が栄えてきました。

「遠野」の地名は、アイヌ語のトオヌップ（湖の意）が転化したものと言われているように、春の田植え時期に高清水高原から一望してみると、その昔遠野盆地が湖水をなしていたということが分かります。

柳田國男の『遠野物語』や、郷土の発展に尽力した多くの先人によって全国的に知られるようになり、田園、山里風景、四季が織り成す豊かで美しい広大な自然環境は、多くの来訪者を魅了しています。

また、「永遠の日本のふるさと遠野」の実現を目指し、地域資源を活かした関係交流人口の拡大と定住促進に取り組んでいます。

高清水高原展望台からの雲海

バケツジンギスカン（遠野スタイル）

岩手県

にしわがまち
西和賀町

西和賀町は、奥羽山脈の東側、国道107号の北上市と秋田県横手市のほぼ中間地点に位置しており南北約50km、東西約20kmで、約8割を山林が占めています。北に国の自然環境保全地域に指定されている和賀岳、南に栗駒国定公園内の一部となっている南本内岳を望み、多くの川や沢が注ぐ和賀川、湯田温泉峡県立自然公園の核となる錦秋湖などが、四季の多彩な景色と恵み、潤いを与えています。

また、西和賀町は特別豪雪地帯に指定されており、冬は2mを超える積雪があることも特徴で、雪を観光資源に活用したほっとゆだ北日本雪合戦大会や雪あかりin西和賀など、雪を逆手にとった冬期のイベントが開催されています。

巻淵　錦秋湖紅葉

ほっとゆだ北日本雪合戦大会

岩手県

かねがさきちょう
金ケ崎町

金ケ崎町は岩手県内陸南部に位置し、農業と工業が盛んなまちです。農業は、食味ランキングで長年にわたり「特A」評価を得た「ひとめぼれ」の生産のほか、広大な牧草地を活用した酪農が営まれており、生乳を使った6次産業化の取組みも行われております。また、アスパラガスの生産にも力を入れ、毎年行われる「アスパラ収穫祭」では1日1トン以上のアスパラが販売されます。さらに、町独自のグルメイベント「オーワングランプリ」など食を通じた祭りで来訪者を楽しませます。工業は、県内最大規模の「岩手中部工業団地」を有し、医薬品や半導体、自動車関連企業などが立地しています。また、金ケ崎町は歴史のまちとして、国指定史跡「鳥海柵跡」、武家屋敷が立ち並ぶ国選定「城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区」、国登録有形文化財「旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎」など歴史を伝える遺跡や町並みに沢山出会うことができます。

オーワングランプリ

国選定
城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区

岩手県

おうしゅうし
奥州市

奥州市は、水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の5市町村が合併し、平成18年2月20日に誕生しました。

岩手県の内陸南部に位置し、地域の中央を北上川が流れ、北上川西側には胆沢川によって開かれた日本三大扇状地の一つ胆沢扇状地が広がり、水と緑に囲まれた散居のたたずまいが広がっています。

市最高峰の焼石岳（1,548m）を主峰とする西部地域の焼石連峰は、ブナの原生林が多く残されています。また、北上川東側には、北上山地につながる田園地帯が広がり、東端部には、種山高原、阿原山高原が連なっており、地域全域が緑あふれる豊かな自然に恵まれています。

胆沢扇状地

日高火防祭

岩手県

ひらいずみちょう
平泉町

平泉町は、岩手県の南部に位置し、東には西行法師や松尾芭蕉が讃えた桜の森の束稲山、町の中央を流れる北上川の流域には田園地帯が広がり、水と緑の豊かな自然に彩られたまちです。

町の中心部には、中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡や金鶏山などの歴史的価値の高い史跡・名勝が点在し、平成23年6月には「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」として世界文化遺産に登録されました。

世界文化遺産を中心とした観光産業は、農業や商工業をはじめとするその他の産業と密接に結び付き、平泉ブランドを活かした米やりんごをはじめとする高品質な特産品も生産されています。

また、奥州藤原氏が唱えた「浄土思想」は世界に誇る平和思想として、各種行事や教育を通して町内外に発信され、世代を超えて受け継がれています。

毛越寺浄土庭園

源義経公東下り行列

宮城県

くりはらし
栗原市

栗原市は、宮城県最北に位置し、県内最大の面積を誇る田園観光都市です。秀峰栗駒山からラムサール条約登録湿地である伊豆沼・内沼まで、市内全域が栗駒山麓ジオパークとして平成27年に日本ジオパークに認定されています。

ここは、栗駒山系を水源とする清流を使った稲作により、かつては伊達家への献上米を納めた地としても名を挙げた米どころです。くわえて、“米どころは酒どころ”というように、市内には歴史ある酒蔵が複数あり、個性豊かな味わいを楽しむことができます。

残雪から浮かび上がる駒姿が春を告げ、ニッコウキスゲやアヤメ、そしてユリたちが夏を謳い、神の絨毯と称される栗駒山の紅葉が人々を魅了し、冬は温かい温泉で疲れた人の心を癒す…見どころ満載の栗原へどうぞお越しください。

秀峰栗駒山

伊豆沼・内沼はすまつり

宮城県

登米市（とめし）

登米市は宮城県北東部に位置し、西部は丘陵地帯、北上川左岸の東部は山間地、その間を県内有数の穀倉地帯を形成する豊かな登米耕土が広がり、宮城米（ササニシキ、ひとめぼれ）の主産地であります。

北西部には白鳥やガンなど水鳥の生息地として国際的に重要なラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼湖沼群があり、「水の里」の様相を呈しています。

面積は県全体の7.36%を占め、県内5番目の広さを有しており、河川は迫川、夏川が市中央を北西から南東に貫流し、東側を北から南に流れる北上川と旧北上川を介して合流しており、農業用水や上水道の水源となっています。

さらには、2021年度前期に放送されるNHK朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」のロケ地の一つとして、本市が舞台となることが決定しております。

長沼フートピア公園

マガンの早朝の飛び立ち（伊豆沼）

宮城県

涌谷町（わくやちょう）

本町は、宮城県の北東部に位置し、仙台市に約40km、石巻市に約20km、大崎市に約12kmの距離に在り、東西14.5km、南北10.3kmで町の中央に標高236mの箟岳山があり、江合川と旧迫川等に沿って水田が広がる、豊かな自然環境に恵まれています。本町では、天平21年（749年）に日本で初めて金が発見され、当時陸奥守であった百済王敬福が聖武天皇に金900両（約13kg）を献上しました。その金は奈良東大寺の大仏の鍍金に利用され、大仏建立という国家の一大事業に大きな役割を果たしました。令和元年に涌谷町、気仙沼市、南三陸町、岩手県陸前高田市、平泉町の「みちのくの金」に関わる歴史や文化にまつわるストーリーが日本遺産に認定されたことから、これからさらに町の魅力を発信していきます。また春の桜まつりのメインイベントとして、毎年、城山公園下の江合川河川敷で東北輓馬競技大会が開催され、人馬一体となって熱戦が繰り広げられます。

2019第69回東北輓馬競技大会
（桜まつりのメインイベント）

天平ろまん館と黄金山神社・金の鳥居

宮城県

石巻市（いしのまきし）

石巻市は、北上川の河口に位置し、宮城県北東部地域を代表する風光明媚な都市です。

伊達藩の統治下には、奥州最大の米の集積港として、明治時代からは、金華山沖漁場を背景に漁業のまちとして栄え、また、昭和39年に新産業都市の指定を受け、工業都市としても発展を遂げてきました。

しかし、平成23年に発生した東日本大震災では巨大津波が河川を遡り、沿岸部のみならず川沿いからも市街地へ津波が押し寄せ、広範囲に甚大な被害をもたらしました。

震災後、災害に強い街づくりと石巻らしい復興を成し遂げるために、「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」を練り直し、「かわ」と「まち」を繋ぎ、新しい賑わい、憩いの場所として楽しんでいただけるような水辺空間を整備し、新たな魅力と活力のある街の創造を進めています。

石巻市中央地区　堤防利活用状況
（写真提供：北上川下流河川事務所）

石巻川開き祭り　孫兵衛船競漕

Ⅱ　実施内容

現地視察

中尊寺 ～ あいぽーと

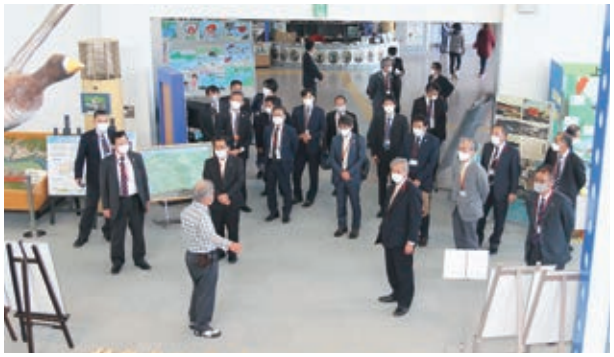
第29回全国川サミットin一関では、総会に先立ち、現地視察を行いました。はじめに「中尊寺金色堂」を視察し、北上川流域で築かれた黄金文化の壮大な物語に触れることができました。

また、当地域は、北上川治水事業の一大プロジェクトである一関遊水地事業の事業地となっていますが、中尊寺、毛越寺をはじめ浄土思想に基づいて造られた多くの建築・庭園及び考古学的遺跡群が点在しており、一関遊水地事業において、堤防ルート上に位置する柳之御所遺跡・接待館遺跡の保存のため、北上川上流改修計画（一関遊水地計画）を変更した経緯があります。

中尊寺の視察のあとは、「北上川学習交流館あいぽーと」を視察し、北上川流域の歴史、水資源、そして、一関遊水地事業について、学んでいただきました。

中尊寺

あいぽーと



令和2年度
全国川サミット連絡協議会総会 次第

日時：令和２年10月16日(金)　14時30分～
場所：ベリーノホテル一関

1　開会

2　会長挨拶

3　来賓祝辞

4　報告

　参加状況について

5　議題

　1）報告事項

- 第１号　第28回全国川サミット in 宮崎　事業報告について
- 第２号　第28回全国川サミット in 宮崎　収支決算について

　2）協議事項

- 第１号　第29回全国川サミット in 一関　事業計画（案）について
- 第２号　第29回全国川サミット in 一関　収支予算（案）について
- 第３号　第29回全国川サミット in 一関　共同宣言（案）について
- 第４号　今後の全国川サミットの開催予定について

6　その他事項

7　閉会

全国川サミット連絡協議会 総会
挨拶・祝辞・来賓紹介

■開会挨拶　勝　部　　修　一関市長

ベリーノホテル一関を会場に、全国川サミット連絡協議会総会が開催されました。開催地の勝部修一関市長が、全国からお集まりいただいた出席者の皆さまへ、歓迎と感謝の意を述べました。

連絡協議会総会では、前年度の第28回全国川サミット in 宮崎の実績報告、今回のサミットに係る議案を提出し、全ての議案が原案どおり承認されました。

勝　部　　修
一関市長

伊　藤　和　久
東北地方整備局　副局長

塚　原　浩　一
リバーフロント研究所　代表理事

来賓紹介

岩手県	副知事	菊池　哲 様
国土交通省	水管理国土保全局　河川環境課長	高村　裕平 様
国土交通省	水管理国土保全局　河川計画課　河川情報企画室長	平山　大輔 様
国土交通省	東北地方整備局　河川部長	國友　優 様
国土交通省	東北地方整備局　岩手河川国道事務所長	平井　康幸 様
国土交通省	東北地方整備局　北上川ダム統合管理事務所長	斉藤　喜浩 様
国土交通省	東北地方整備局　北上川下流河川事務所長	佐藤　伸吾 様
岩手県	県土整備部長	中平　善伸 様
岩手県	県南広域振興局長	佐々木　隆 様
岩手県	県土整備部　河川課総括課長	上澤　和哉 様
岩手県	県南広域振興局　経営企画部長	佐々木　亨 様
一般社団法人	東北地域づくり協会　岩手支所長	小山　幸男 様

国土交通省　講演

「河川環境行政における最新の取り組みについて」

国土交通省　水管理国土保全局
河川環境課長　高　村　裕　平 氏

①流域治水・既存ダムの洪水調節機能の強化について

地球の温暖化の影響というのは、気候変動し２度上昇した場合、降雨量が1.1倍になり、洪水発生頻度は約２倍になると言われています。元々河川整備の計画というのは、過去の降雨、あるいは河川、海の潮位が大前提になっているので、その大前提が崩れてしまうというところに一番大きな問題があります。大前提が崩れてしまうと、これまでの河川の整備、あるいはダムの整備のような計画としてしっかり見込んできたものだけでは対応しきれないことが充分起こり得ます。

水害対策の進め方として、我々が考えられる全ての取り組みを織り込んでいこうと流域治水プロジェクトというのを流域ごとに定めております。すでに大きな災害を受けた、７つの水系で先行しているわけですが、これを全ての水系で令和２年度末までに策定する、その策定過程そのものが地域の方々、あるいは関係自治体の方々と一緒に考えることこそが対策になっていくと思います。

流域治水の中の一つで大きなものが既存ダムの洪水調節機能の強化です。ダムには大きく分けて治水を目的に持っているダムと、利水専用のダムがございます。当然治水を目的に持っているダムであれば、元々洪水がきた時には洪水調節容量を持っているので、貯めることができます。ただ利水ダムの場合は、できるだけ水を貯めておきたいので、洪水を貯めようと思っても基本的にはいっぱい水が貯まっている状態で洪水を迎えることが多いので、洪水を貯めることはできません。これを洪水調節に用いるにはどうしたらいいかという時に、最近よく聞かれる事前放流ということを行います。

今、地球の温暖化があって、洪水の危険性がどうしても高まっている現状において、あらゆる施設を有効に活用していきたいと考えております。

②多自然川づくりについて

あらゆる河川整備については計画から施工まで、全ての段階で、多自然川づくりを基本的に行うということになっています。

例えば岐阜県ですが、既設の護岸をあえて撤去している例もあります。これにより生物の生息環境を確保すること、あるいは子供たちを水辺に近づけ、誘う狙いで、整備をすることもあります。

円山川の例で、コウノトリが、日本で一度自然絶滅しておりますが、最後に残っていたのが円山川、豊岡のエリアでした。そこにコウノトリを復活させようという動きがあり、コウノトリの生息の場としてこの円山川を整備する時に、高水敷があった所を薄く切り取り、湿地にすることでコウノトリの生息場所を確保しました。これ自体は、円山川、豊岡市がコウノトリの野生復帰の後押しをした例かと思います。これが実は地域ブランドの向上に非常に役に立っておりまして、コウノトリを育むお米という現在一つのブランド米になっています。

関連して、今年２つほど非常に嬉しい知らせがありました。国土交通省では、北海道の長沼町に位置する舞鶴遊水地を整備しております。以前、千歳川放水路というのを計画していたのが中止になった後、代わりに遊水地を整備したというものです。この遊水地をタンチョウに適した環境にすることによって、それを呼び込み、今年５月に初めてこの遊水地の中でタンチョウが自然繁殖を行いました。タンチョウは北海道の中でも東部の釧路湿原などがメインなのですが、札幌圏では100年ぶりで、このような人工湿地における繁殖は初めてということでした。

また、これはコウノトリの話ですが、日本最大の遊水地である渡良瀬遊水地に、小山市がつくった人工の巣の塔の上で、コウノトリが２羽誕生して巣立ったという話があります。東日本でコウノトリが巣立ったのは100年以上ぶりだということで、コウノトリという非常に大型鳥類の復帰が関東地方でも進み、河川整備がその後押しをしたという例です。

③かわまちづくり・ミズベリングについて

かわまちづくりについては、ハードの整備は河川管理者である程度行いますが、ソフト対策として、例えば占用の許可、また各地のイベント等によって地域の活性化に結び付けようという事業です。

例として、かわまち大賞というのを一昨年から始めておりますが、非常にいい事例についてはこういう大賞という形で、ある意味目立っていただいて、このようないい例に続いて欲しいという取り組みをしております。

東北地方にたくさんいい例があります。一関市の例で、遊水地の周辺にある磐井川というかつて大きな災害が起きた川を市民に親しんでいただくべく、整備をしています。

それから県庁所在地、北上川の上流の盛岡市の例です。北上川が街の中央を流れており、そこを活用していただいています。

また、北上川の下流の石巻市で、震災復興で堤防を整備するのと一体的に整備された例です。北上川は非常に全国的にも自慢できる例が多々ありますので、私たちとしても支援してまいりたいと思っております。

それからこのような取り組みについては、統一的なブランドの基、活動をできるだけ広く知らしめたいということで「ミズベリング」という取り組みをしております。毎年７月７日にやっていた「水辺で乾杯」というのも、今年はコロナの関係で９月９日に行いました。今は新型コロナウイルスを前提とした新しい日常をつくり上げていくべく、河川というオープンスペースでこの活用というのはニーズに合っているのかなと思っております。

岩手県一関市
勝　部　　修 市長

一関市は岩手県の岩手町から河口にあたる宮城県の石巻市まで249kmの東北最大の河川である北上川のちょうど中央部分に位置しています。

北上川は、一関市の民間団体が主導いたしまして、エジプトのナイル川と河川の姉妹協定を結んでいるところです。世界の歴史を辿って行くと、歴史文化のある都市は河川との共生が存在していたからとはっきり分かるわけでございます。このエジプト文化のナイル川やチグリス・ユーフラテス川、メソポタミア文明など、文化都市が必ず河川との共生があると考えると、その昔には北上川を通り平泉の中央の様々な産物が運ばれて来たことがあるのなら、またその逆の水運もあったわけです。

そのような中で、当市は黄金文化をキーワードにして、様々な取り組みをしております。最近では東京オリンピックのメダルを都市鉱山から産出される希少金属で作ってはどうかと組織委員会の森会長に提案して、オリンピック組織委員会から正式なプロジェクトとして認めていただきました。そして、使わなくなった携帯電話を市民の方々から回収して、金や銀を抽出し、メダルを作るということで進めて参りました。また、八戸市と秋田県の大館市、そして、当市の3市で取り組み、目標数を達成したところです。金メダルに換算しますと、一関市と平泉町を合わせて、117個の金を回収できました。これも東京オリンピックでメダルに使用しても余るくらい回収したので、次のパリ大会にこれを引き継いでほしいと話をしており、こちらも了解いただいたところです。

このように北上川が江戸時代から舟運の大動脈として江戸と平泉をつないで、その豊富な水量と灌漑用水としても十分に活用されてきました。

しかし、いいことばかりではなく、昭和22年、23年に相次いで襲来したカスリン・アイオン台風は当市にとって最大の試練となりました。市街地のほとんどが水没してしまい、まさに一関の歴史は、そこからまたスタートしなければなりませんでした。今日午前中、皆様に視察いただいた遊水地ですが、こちらも50年近くかかりようやく完成が見えてきております。すでに整備が終わった所につきましては、市民の憩いの場になるべく、様々な大規模イベント会場として活用させていただきます。市民の足が水辺文化のほうに向いてきているということは、非常に大きな意味があると思います。川は時として脅威となる存在でもございますが、歴史文化を形成する大きな役割ももちろんあるわけです。これからも災害を少なくすることに心を砕いていきたいと思います。

配付した資料で、「山地から河川へ流出する流木による被害」ということで、昭和22年、23年のカスリン・アイオン台風の時の写真、そして右側はつい最近の写真でございます。白黒かカラーかの違いはありますが、よくよく見ると全く同じ写真です。ですから、私も河川の上流に近いほうに、何度か足を運んでみました。そうすると、どこからが山林で、どこからが河川なのか、源流に近くなればなるほどその境界が分からなくなっていくのです。そのような所でも河川の中に杉の木があるわけです。この状況をなんとかしたいと思い、森林組合ともいろいろ話をしているわけですが、そのようなところも縦割りですと別の省庁で担当なさっているところかもしれません。今回の内閣は、その縦割りも関係なく行っていくと話しておりますので、これからもこの部分について、更なる対策を求めていきたいなと思っております。

秋田県横手市
髙　橋　　大 市長

横手市は秋田県の南にあります横手盆地の中心に位置しています。盆地の西側を雄物川が走っておりまして、支流の成瀬川、皆瀬川、そして横手川などもございます。盆地特有の高温多湿の夏や、大豪雪地帯という厳しい風土ではありますが、古来よりその水の恩恵にあやかりまして、稲作や果樹、野菜を含めて多彩で豊富な農産物を生産しております。横手を代表する冬の伝統行事のかまくらや、明治初期から昭和初期にかけて建築され、伝統的な内蔵を有します、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている増田の町並みなど、1年を通して国内外より観光客に訪れていただいているところでもございます。平成30年5月には、原画収蔵数40万枚以上という日本一の原画の収蔵数を誇ります増田まんが美術館がリニューアルいたしまして、多くの方々に訪れていただいているところです。ご当地グルメの祭典B－1グランプリでは、かつてゴールドグランプリを受賞した横手やきそばなど、食やお酒の宝庫でございます。ぜひいらした際には、飲んだり食べたりしていただければと思います。

さて、我がまちの川との関わりを申し上げます。当市を流れます雄物川は流域面積が全国13位で、東北におきましては4位です。雄物川河川公園を有し、平成21年と26年の国交省におきます川の通信簿では、最高評価のランク5をいただいております。かつてこの雄物川は「御物（おもの）」という年貢を運ぶ川として水運に使われ、それが由来の一つとも言われておりますが、昔から多くの恵みをもたらしている川でもございます。この雄物川河川公園におきましては、ジョギングやハイキングなどにも利用されており、春から秋まで市内外の方が多く訪れます。中心市街地を流れ、雄物川の支流である横手川の蛇の崎橋では、夏には全国線香花火大会や約300年の伝統がある送り盆まつり、ねむり流しなどが行われるほか、冬にはミニかまくらを河川に設置し、ろうそくを灯して幻想的な風景を演出するなど、この川の魅力を大いに生かしながら地域のイメージの向上、観光の振興を行っております。また当市は、豪雪地帯でございます。横手川等の河川に隣接するかたちで市街地が形成されているため、市内の流雪溝は河川からポンプアップをして大量の水を流し、雪を流してまた河川に戻すというかたちとなっております。このように、冬季生活の中においても、市民は川の水の恩恵をいただきながら安全・安心に暮らすことができております。また当市は県内有数の穀倉地帯でありまして、1万町歩を超える田畑には、特に田んぼを潤す水が必須でございます。

このように、観光振興、地域振興、雪対策、そして産業としての農業など、この横手を流れる川は市民にとって貴重な資源となっております。今後も当市におきましては、川の恩恵をしっかりいただきながら、その大事さを子どもたちにも伝え、川まちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

山形県鮭川村
元　木　洋　介 村長

鮭川村は山形県県北、新庄市の西隣に位置しており、秋田県境に近いところにあります。横手市の髙橋市長さんとは以前に機会がありご一緒させていただいたこともあります。

鮭川村の人口は４千人で農業が主産業です。昔は米が主でしたが、現在は農業生産の55%をキノコが占めており、９種類ものキノコが生産されています。２番目は米で次が畜産とバラを主体とした花が生産されており、中央市場にも出荷されています。また、山に囲まれていますので山菜も豊富で、これからの時期は山のキノコもたくさん採れます。

村の観光としては、開湯100周年を迎える羽根沢温泉があり、源泉の温度は47度もありますが非常に肌に優しく「美人の湯」と言われています。

山形県には母なる川「最上川」があり、その支流として「鮭川」があります。かつては水害の常襲地帯で特に昭和50年の大水害では上流の真室川では死者、行方不明者もあり大災害となりました。その水害以降に築堤が進められ、かなり安心して住めるようになりましたが、近年の豪雨による水害は想像をはるかに超えるものがあり、鮭川の上流域にある３つのダムも事前放流による流量調整を行い下流の水害対策を行っていく必要があると感じています。また、今日見させていただいた一関遊水地のように遊水地の必要性も改めて感じたところです。

かつては子どもの遊び場だった川ですが危険なことから川に近づけなくなり、川との関わりが薄れていくことをさびしく思い、河川敷でのイベントを今から36年前に考え、現在は「まるごと鮭川　鮭まつり」として開催、１日のイベントですが５千人を超える来客をいただくようになりました。また、鮭の遡上時期は釣獲調査も行われ、今年は333人の登録があり、延べ600人が参加される予定です。このように村では川と観光を結び付けた取組も行っております。

また、昔から遡上した鮭を捕獲して増殖事業も行われており、村としては小学校の総合的な学習にも取り入れています。この取り組みは東京都荒川区の２つの小学校とも「鮭の里親事業」として交流を深めています。

水害の常襲地帯ですので、肥沃な農地となり非常においしい米がとれる村でもあります。
以前に開催されたコンテストでは鮭川産の「つや姫」が最優秀賞を受賞し日本一おいしい米に輝きました。

「鮭川」は当村にとって、大きな恩恵をあたえてくれる川であります。

福島県湯川村
三　澤　豊　隆 村長

湯川村は会津盆地の真ん中で、隣は山がありましたが、山のない、基幹産業は農業、米の生産地でございます。阿賀野川は新潟ですが、その上流阿賀川、そして日橋川、それに挟まれた湯川、それからせせらぎ川と、四つの川が流れる湯川村でございます。本日、平泉さんのすばらしい国宝を見させていただきましたが、じつは私のところにも国宝がございます。それは薬師三尊。薬師様、日光、月光、３体の国宝があります。そのほか重要文化財が７体ありますが、今から1200年前に建立されたお寺です。常に洪水が出て、村ごと無くなるといった状態が過去の歴史にありました。そういう中でお寺は今、講堂だけ残っております。そして講堂にはその薬師三尊があります。それから重要文化財の7体が入っていますが、この生かし方を今日は見せていただいて、一生懸命これから考えていきたいなと思います。そのような洪水の被害にあった歴史の中に米づくりを行っているわけですが、米はふるさと納税で、過去は３億ほどありましたが、残念なことに今年は総務省の1億５千万ほどの規制がありました。そのように米を売りに一生懸命、基幹農業生産しているところでございます。そしてその中で、川の駅、人の駅、道の駅を会津坂下町さんと、お隣の湯川村で６年前につくりました。おかげさまで年間110万を超える人がお出でになっています。この道の駅にも歴史がありまして、ダムがあがった際に、阿賀野川は阿賀川、只見川が合わさり、阿賀野川となって、新潟へ流れるわけですが、越後から帆掛け船で、現在道の駅がつくられている所まで上ってまいりました。そしてそこから陸上に上がり、それが越後街道になります。そして会津若松城に物が入っていったそのような川の流れがありました。越後街道と川の街道の交わり地点に今は会津坂下道の駅がつくられております。そして、その道の駅は道の駅と川の駅と人の駅の役割を持っております。川の駅はちょうど２次工事を行っておりますが、河川敷を少し高めに、護岸工事をしていただいて、その上でさまざまなイベントができるスペースをつくっていただき、おかげさまで来年度終わります。また、人の駅は防災拠点として出来上がっております。そして道の駅。一生懸命、会津坂下町さんと地域振興を行いそこには広場もあり、いろいろなイベントを行っております。そのイベントを行う所が、川の駅のスペースですが、現在は水合戦、カヌー大会、それから新米まつりなどを行っております。今年はコロナで中止が多いのですが、新米まつりには、当日2,000人集まっていただき利用を行っております。ある意味、会津のど真ん中の地の利と、昔からの歴史の流れや越後街道のつながりの中、湯川村の特産である米を売り込みながら、お隣の会津坂下町さんは越後街道の城下町でございますので、物産もあります。それに合わせて、人々が物産を求め集まっているところであります。これからも尚一層、地域の振興を図り、そして川を十分生かしながら、川の空間で大いに人々が豊かになります。また子供たちがそこで、色々な経験をして育っていき、そのようなあり方を望みながら、一生懸命地域振興頑張っていきたいと思います。このような、コロナの中においても工夫しながら地域の利便性、それから予算を訴えながら行っていきたいと思います。

群馬県みなかみ町
宮　崎　育　雄 副町長

みなかみ町は、群馬県の最北端に位置しておりまして、人口はわずか18千人程度ですが、面積は781平方キロあり、群馬県の約12.5パーセントを占めております。そして９割が山林です。そして、山林が多いので、非常に今年は獣害が酷く、今年は毎月のように、クマが出たという情報が入っております。日本一の流域面積を持つ利根川の源流に位置しております。町内には、四つの国営ダムがあります。まず利根川流域に、今年貯水し終わりました、八ツ場ダムを含めて五つはあると思いますが、そのうち四つのダムが、私の住む町にありますので、総貯水量は４億トン近くになります。首都圏の３千万人の生命と財産を守る重要な役割を持っていますので、責任を感じております。そして、利根川源流の町を標榜してまちづくりを進めています。町内ですが、ちょうど北に、日本海と太平洋側の分水嶺となっており、谷川連峰を掲げています。また東から西に扇状に広がっている地形になっていて、標高が300メートルから2000メートル程度ありますので、非常に長く桜も紅葉も見れる地域でございます。上信越国立公園に含まれている、国内第一級の山岳地や景勝地がございます。また町内に93か所温泉が出ている水上温泉、法師温泉、宝川温泉等テレビでよく放映される温泉地がございます。町は、長い年月をかけてこれらの貴重な地域資源を貸しつつ、交流を通じて基幹産業の観光業と農業を活性化していく、そのようなまちづくりに取り組んできました。その自然環境と人間が共生しながらまちづくりを行なうと、世界のモデル地域としてユネスコに評価され、平成29年にはバイオスフィアリザーブの生物圏保存地域になり、みなかみユネスコエコパークに登録されました。

今回のテーマである、川との関わりですが、古来農業を始めとした人々の暮らしの中で、川との関係があり、利根川の上流の川沿いに、弥生時代の遺跡も発掘しております。これらは、3,500年前から川を利用した人間の営みがあったからこそと実感いたします。また、真田丸でご存知だと思いますが、隣の沼田市に沼田城がありまして、真田が私の町を含めて沼田市付近を治めていたことがございました。また、真田の時代に利根川から用水を引き、利根川沿いに田んぼを切り開いていったような、歴史もありました。ただ、最近は、農業だけではなく、観光にも非常に川が利用されるようになりました。そして、ラフティングやキャニオニングなど、アウトドアスポーツが盛んです。ある事業者が、30以上年間15万人ほどの方々がアウトドアスポーツに励むような町でもございます。スキー場なども沢山ありますので、年間400万人ぐらいの観光客が首都圏から訪れている町です。

この町で川を生かした地域や歴史等に、特に取り組む事項として、利根川沿いに位置する道の駅の水紀行館があるのですが、そこがラフティングボートの発着点になっております。ここを拠点として川まちづくり事業に着手したところでもございます。今年から着手する計画づくりは、県、国等には大変お世話になりまして、そしてそこに地域の人が参画をして、知恵を出し合いながら計画づくりを進めてまいりました。いよいよ今年から着工ということで非常に期待をしているところでございます。このようにいい意味の川の使われ方もあります。しかし、ダムがあるので大きな災害はなかったのですが、最近は、雨の降り方が変化し、非常に線状降水帯ができたりなどします。つい1か月前も、２日間にわたって土砂災害警戒情報が出され、農業施設等も甚大な被害を受けております。そのようなこともありまして、そのダムだけに頼らないよう、ダムの下流でもしっかり災害対策をし、利根川源流森林整備隊や自伐型林業という、自分の山は自分で切って維持するというような、取り組みも行っております。ユネスコパークの中で以上の事業を位置づけることにより、SDGs未来都市を、昨年度も選定をされているところでございます。これからも、こういった取り組みを行ない、国や県、流域市町村等々と連携しながら、治水事業に取り組んでまいりたいと思いますので、ご指導とご鞭撻をよろしくお願いします。

東京都江戸川区
新　村　義　彦 副区長

江戸川区は、東京都の一番東の端にあり、都県境の江戸川を挟んで、ディズニーランドがあります。そして、浦安市さんと隣接しております。名前のとおり、東には江戸川、西には荒川と、大河川に挟まれている河口の街で、南の部分は、東京湾に面しています。そのような地勢ですので、元々平坦地ですが、さらに昭和の時代に、天然ガスや地下水を汲み上げていますので、２mから３mほど地盤沈下をしてしまいました。区域の約７割が満潮以下で、ゼロメートル地帯の地勢でございます。多分全国の中でもゼロメートル地帯に暮らす人口が一番多い町ではないかと思います。そうしたことから国土交通省さんをはじめ各河川管理者の方が放水路を掘ったり、堤防を強化したり、様々な河川事業に取り組んでいただいておりますが、本区はちょうどスーパー堤防の整備地域にもなっておりますので、私どもはまちづくりの観点からスーパー堤防整備事業も取り組んでおります。そうした中で旧年度、台風19号が直撃してきましたが、荒川流域に３日間の総雨量が約420ミリと、これまで経験がないような雨量が降りまして、危険水域に達しました。そして河川管理者の方と情報共有をしながら、令和元年の10月に70万人の人が住んでおりましたが、荒川が仮に決壊した場合に、その流域にお住まいの方が約43万人いますので、この方々に避難勧告を出し、105か所の避難所を開設いたしました。結果としては大きな被害には至らなかったですが、105か所の避難所に３万人の方々が避難をされました。そこでも沢山の課題が出ました。その運営方法の問題でしたり、あるいはもっと効用的に避難をしなければなりませんので、教訓になっております。今後も災害対策に努めていきたいと思います。一方、川との関わりでは、元々、農耕地帯でありましたので、420kmに及ぶ水路が、縦横に張り巡らされ、田んぼや畑をつくりましたが、都市化に伴いまして下水道整備をする時に、水路を埋めてしまうかという岐路もありました。しかし、全部埋めるのではなく、親水計画をつくりまして、数字で申し上げますと約27kmは埋めず、親水公園や親水緑道として生かしていこうとしております。そして、今ではネットワークが整備されて、区民の方は水に親しみながら住んでいるという反面もございます。また本区の臨海部は、今年延期になりました2020東京オリンピックの、カヌースラロームの会場もございますので、親水公園の資源を生かして、区営のカヌー場もオープンし、水の脅威はあるものの、水とどう親しんでいくかをテーマに、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。今後、以上のことで川を大事にしながら取り組んでまいりたいと思っております。

首長サミット

愛知県岡崎市
山　本　公　徳 副市長

岡崎市は愛知県のほぼ中央に位置しておりまして、地域を南北に矢作川、東西を乙川という二つの大きな河川に、貫かれております。その二つの河川の合流部に中心市街地と鉄道と主要道が配置されています、大変河川に近しい関係にある都市でございます。これらを歴史的に紐解きますと、私どもの岡崎市は、鎌倉期に足利一族の本拠地で、いわゆる源氏一門の本拠地でした。そして、室町末期は、戦国期には徳川家康を輩出いたしまして、29歳で本拠地を移すまで徳川の本拠地でもございました。そのおかげもありまして、江戸期には岡崎城の城下町として大いに栄えました。現在人口38万７千人の中核市に位置付けられております。少し河川の取り組みにつきまして申し上げますと、私どもの矢作川流域は、流域全体で矢作川沿岸水質保全協議会という組織を持っています。これはどういったものかと申しますと、その矢作川流域で造成工事や開発行為などを行う時に法令よりも厳しい水質浄化や水質保全、また濁水防止の基準が課せられる暗黙といいますか、伝統的なルールがございます。これは基本的には矢作川ガバナンスとも言われまして、全国でもあまり例を見ない水質の水管理のマネージメント体制システムが出来上がっている地域でございます。また、利水について申し上げますと、この乙川と矢作川の合流部には岡崎城というお城があり、その岡崎城は乙川という川を、一つのお堀として活用しておりました。おかげさまで、この岡崎城とそこに隣接いたします乙川とその河川敷には、市民にとって安らぎと憩いの場となっております。春には桜の名所百選にも選ばれております、岡崎城下一帯の桜ですが、夜桜は東海地方随一とも言われています。また夏には、中心部の河川敷で伝統的に花火大会を行っておりまして、発数でいきますと２万発、全国でも有数の規模の花火大会が行われております。また秋には、農業祭や商工祭り、冬には河川一帯のイルミネーションもあります。そして年間を通して、岡崎市民の親しみと安らぎの場となっております。こうしたものを、もう一歩進めようと、平成27年に先ほど国土交通省の課長さんからも話がありましたが、川まちづくり支援制度の認定を受けました。ですが、かなり厳しい法規制の緩和を受けまして、映像を見ていただくと分かる通り、じつはこれナイトマーケットで、自ら持ち寄った手芸品のような物です。売ったり、ノミの市のマーケット版ぐらいのものですが、そのようなことが行われておりまして、新たな活用というものが生まれてきています。もう一つ申し上げますと、その日がちょうど絵として、花の下に一つ橋が、映っておりますが、これは全長121.5m、有効付近16mの面積にいたします。約２千㎡で、車の通れる橋ではございません。あくまで人が通る公園橋です。我々の願いとしましては、川の上に約２千㎡の街区公園をつくったという取り組みでございます。今は何もございませんが、令和４年度になると、この上に常設のフードコートや橋の上に建築物をつくることが決まっております。この手法として、パークPFIでございますが、大げさに申し上げますとイタリアのポンテベッキオのベッキオ橋のようなものになります。またそうした名物になればと考えております。このほかにも、今見えております河川敷も１周３kmの遊歩道として整備いたしまして、映像はございませんが下流部には右岸と左岸をつなぎます潜水橋などもございます。また浸水護岸や船着き場等も数か所整備いたしまして、先ほどの江戸川区さんには届きませんが、昨今にはカヌーやサップなどの河川アクティビティも頻繁に行われるようになっております。冒頭に申し上げましたが、大変河川に近しい都市ですので、もっとこの河川を活用していき、そのようなまちづくりを進めていきたいと思っております。今、縷々申し上げましたが、このほかにもまだいくつかの取り組みを進めております。次回の第30回全国川サミットは私ども岡崎市で開催させていただきます。ぜひ皆様にお越しいただきまして我々の取り組みをご笑覧いただければと思っております。

兵庫県加古川市
岡　田　康　裕 市長

加古川市は、名前のとおり「加古川」という一級河川が流れています。兵庫県のちょうど真ん中くらいから瀬戸内海に向かって流れており、市域を半分に割るように貫流しています。その流路延長は約100kmと、北上川には及びませんが、兵庫県下最大の河川です。

河口の平野部に位置する加古川市には、広々とした河川敷が点在しています。そこでは毎年、夏に５千発の花火大会が行われ、多い年には９万人の方にお越しいただいています。また、12月には河川敷マラソンコースを利用したフルマラソン大会を実施しています。

上流部には、国土交通省に設置いただいた加古川大堰があり、付近の広い水面を活用して、漕艇センターを拠点としたボート競技の振興を図っております。市民参加型の市民レガッタや、関西学生秋季選手権（加古川レガッタ）が毎年開催されているほか、今年は初めて、カヌースプリントの日本C代表とU23日本代表の皆さんが強化合宿を行い、３か月ほど滞在されております。市としても、今回のカヌーを皮切りに、漕艇センターの新たな活用を考えていきたいと思っています。

最後にもう一点はミズベリングです。加古川市は、神戸市と姫路市の間にあります。JR西日本の在来線では、最もスピードが速く停車駅の少ない新快速列車が加古川駅に停車します。そして、駅から徒歩で10分程度のところに、加古川の河川敷が広がっています。河川敷空間をうまく生かしきれていないことが私たちの課題であり、これからの人口減少対策の意味でも、市の顔となるような空間にしていかなければならないと思っています。

今後、市をあげて市民の皆さんと一緒に「かわまちづくり」に取り組んでいきたいと考えておりますので、色々な先進事例に学ばせていただきたいと思います。

愛媛県大洲市
二　宮　隆　久 市長

愛媛県大洲市は、道後温泉のある松山市から西南に約50kmに位置しています。一級河川「肱川」は、市の中心部を貫流して伊予灘に注いでいます。源流から河口まで直線距離で18kmですが、流長は大きく迂回しており103kmあります。河口が狭く、河川勾配が緩やかなため、降雨時に水が吐けにくく、さらに支川が474本あって大洲盆地に洪水が集中する地形のため、治水が難しい河川です。平成30年7月豪雨で甚大な被害が発生し、現在、再度災害防止に向けて、肱川緊急治水対策の取り組みが進められています。

一方で、藩政時代から肱川が育んだ肥沃な土壌と水利によって、当市の農業を中心とした産業、食文化、観光など、様々な分野で肱川の恵みを活用しながら栄えてきた町です。

特に観光面では、昭和32年から「観光うかい」を行っています。大洲の「うかい」は、合わせ鵜飼と呼ばれ、鵜船と屋形船が並走することで、鵜がアユをくわえて水面に上がってくる姿を目の前で見ることができます。コロナ禍でインバウンドのお客様が減少していますが、外国の方からもファンタスティックという言葉を頂いています。

秋には、昭和41年に観光行事化し、肱川の河原で里芋や蒟蒻、鶏肉、特産の椎茸などが入った鍋を囲む「いもたき」が名物です。この「いもたき」を家族や仲間で囲んで、中秋の名月を愛でながら頂いています。現在、山形県中山町、島根県津和野町と「日本三大芋煮」としてＰＲに取り組んでいます。

近年は、川の流れが緩やかな肱川において、カヌーやサップ体験や河川沿いの道路や堤防上を走るサイクリングも人気があり、JR四国の観光列車「伊予灘ものがたり」でも沿線にある菜の花、桜、つつじなど美しい河川景観、河畔の風景を楽しむことができます。私自身も久しぶりに練習して、今年は鹿野川ダム湖のカヌー大会に参加しました。

冬には、上流の大洲盆地にたまった霧が、夜明けとともに川を下って伊予灘に流れる珍しい自然現象「肱川あらし」が発生し、同様の「あらし」が発生する、兵庫県の円山川、鹿児島県の川内川で「三大あらし」の交流が始まりました。

肱川を活用した賑わいづくりで色々なことにチャレンジしていますが、今後は、国土交通省の登録を受けた「肱川かわまちづくり計画」に基づき、多くの市民やお客様にも肱川で自然に親しみ、楽しんで頂けるまちづくりを進めたいと考えています。

なお、報道等でご存じかもしれませんが、木造で復元した四層四階の大洲城の一般観覧時間外を利用して1泊100万円で城主体験をする「大洲城キャッスルステイ」も令和２年から取り組み、７月に第1号のお客様をお迎えしています。

肱川流域の文化財や地域の歴史を生かしながら、緑豊かな肱川の風景と育まれた文化、流域で息づく営みを未来へとつなげるため、肱川の魅力を最大限に活用したまちづくりを進めています。

全国から多くのお客様のお越しをお待ちしています。

宮崎県宮崎市
田　上　明　彦 副市長

宮崎市の中心を流れる大淀川は、その源は鹿児島県の曽於市でございます。霧島山系から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を併せ持ち、東の日向灘に注いでおります。流域面積は九州で２番目の広さで、延長が九州で４番目に長い九州屈指の一級河川でございます。この流域にあります霧島付近は国立公園、そして九州中央山地は国定公園の指定を受けております。また宮崎市の西に位置する綾町を中心にユネスコパークの登録がされるなど、大淀川がもたらす自然環境や景観は広く認められているところでございます。さて、宮崎市では豊かな食材と恵まれた自然による滞在型観光を推進しております。昨日の昼から飛行機と新幹線で夜の８時頃に着いたのですが、宮崎はまだ半袖です。気温差は10度ぐらい違います。こちらに降りて、肌寒いと思ったところです。そのような温暖な気候がありますので、完熟マンゴーや日向夏、そして完熟キンカンなど特にフルーツの知名度が上がってきているところでございます。また全国和牛能力共進会において史上初の３大会連続で内閣総理大臣賞を受賞した宮崎牛、そして地鶏やチキン南蛮、冷や汁など宮崎特有の食べ物も宮崎平野と大淀川の豊かな恵みの一つでございます。また恵まれた自然を生かしてサーフィンなどのマリンスポーツをはじめ、ゴルフやサイクリングなどのレジャースポーツも充実しております。特に大淀川下流域ではその緩やかな流れを生かして川下りを楽しむサップやカヌーなど水辺空間を使ったアクティビティも盛んです。そしてこの大淀川の流れる宮崎平野ですが、冬も温かく気候も良いことからプロ野球やＪリーグなどのプロスポーツのキャンプ地としても知られているところです。また観光資源の一つとなっております。プロ野球は３球団が、キャンプをしています、今年もジャイアンツとソフトバンクが非常に成績が良く、今年も優勝してくれるのではないのかなと期待をしているところでございます。どちらが日本一になっても、宮崎県がキャンプ地と、宮崎市民は言うのです。それに大淀川のほとりから見れる夕陽です。印刷ではありますが、本当にきれいなことから市民だけではなく観光客にも大変親しまれているところでございます。最後になりますが、あらためまして昨年の全国川サミットin宮崎にご協力いただいたことへの感謝を申しげますとともに今回の全国川サミット in 一関が盛会に開催されますことをお慶び申しあげます。

首長サミット

岩手県岩手町
佐々木　光　司 町長

岩手町は北緯40度に位置しております。北上川、東北で一番大きい北上川の源泉のある町、そして最上流部の町であります。今は東北一のキャベツ産地としても知られております。北上川は岩手町を出発して249km、石巻へと流れておりますが、私どもは源流・源泉の町として古来から川と共に生活をしてまいりました。さまざまな川との歴史があるのですが、近年では特に20年前から関係者がご尽力くださり、北上川の源泉のある旧水堀小学校と河口の町の旧北上町、宮城県旧北上町旧吉浜小学校の児童の皆さんが毎年行ったり来たりの交流を続けております。その後、町の合併などで小学校の合併・統合がありましたが、今でも石巻市立北上小学校さん、そして当町の沼宮内小学校が交流事業を継続しております。これは将来にわたって子供たちに川を知っていただき、川を通しての交流が大きな財産になるのではないかと、そのように考えております。ただ今年度はコロナの影響でこのような交流事業ができなかったということ、大変残念なことでございますが、来年度以降はまたこれまでにも増して、充実した事業を展開していければと、そのように期待しております。また当町は、今年度、先程みなかみ町さんもおっしゃいましたが、内閣府の SDGs 未来都市に応募して、選定されました。奇しくも、宮城県の石巻市さんも今年度 SDGs 未来都市に選定をされ、河口の町とこの源泉の町がそろって SDGs 未来都市に選定されたということも、何か一つのまた新たなご縁だと思います。また何か新しい川を通しての交流事業、それから SDGs を通しての交流事業に発展していければいいのかなと、そのように考えております。また北上川の支流で一級河川でもある丹藤川という川が町内を流れています。当町では子供たちを集めて毎年1回、里川キャンプ事業も行っております。また平成16年度には、北上川源泉の近くに川の駅を整備しました。石巻までキャラバン隊を組んで各市町村を回らせていただきました。それから北上川のシンポジウムやB級ご当地グルメのイベントも行い、北上川を軸にして、これまでさまざまな事業を行ってきたところでございます。これから北上川の源泉の町としていったい何ができるのか、何をすべきなのかというのを少し私もいろんなことを考えているわけでございますが、環境の問題、エネルギーの問題、山林経営の問題、また北上川への影響など、次世代にどういう川環境と自然環境を引き渡すことができるのかを考えながら山積している課題に向かって挑戦を進めていきたいと考えております。当町は先ほども申し上げた東北一のキャベツ産地の町でもありますし、町立の美術館を持つアートの町でもあります。また、来年のオリンピックでは、アイルランドの女子ホッケーチームの事前キャンプを受け入れるくらいのホッケーの町でもございます。農業、そしてアート、スポーツ、この三つの文化にさらに磨きをかけながら頑張っていきたいと考えております。

岩手県八幡平市
関本　英好 建設課長

八幡平市につきまして紹介させていただきます。八幡平市は平成17年に旧西根町、松尾村、安代町の3町村が合併して誕生しました。岩手、秋田、青森県の北東北のほぼ真ん中に位置しております。八幡平市は岩手山、国立公園八幡平、安比高原など数多くの観光名所があります。また安比高原スキー場をはじめ市内には四つのスキー場があり、県内有数の観光地となっております。市の主な産業は農業で、特に花卉、花のリンドウにつきましては毎年、生産額が10億円を超え、全国シェアの3割強を占める日本一の産地となっております。川との関わりについて話題提供をさせていただきます。八幡平市内を流れる河川は太平洋に注ぐ北上川水系と馬淵川水系、日本海に注ぐ米代川水系の三つの水系が流れ、全国でも希少な分水嶺のある市となっております。本日はその中の一つの河川である馬淵川水系、安比川に関わる話をさせていただきます。安比川流域の八幡平市と二戸市が日本遺産に共同申請した「“奥南部”漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～」が本年6月19日に認定されました。日本遺産とは地域の歴史的魅力や特色を通じて国の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定するもので、令和2年度は全国で69件の申請があり、21件が認定されております。過去6年間で104件のストーリーが認定されておりますが、新規の認定につきましては今年度で最後とのことであります。日本遺産に認定されたストーリーの概要ですが、日本民俗学の祖・柳田國男氏は安比川流域を奥南部と称しております。安比川の上流域には木地師、中流域には塗師、下流域には漆掻きが多く住み、地域で一体的な漆器製作を行ってきました。生漆や漆工芸品の産地としての誇りを胸に、漆産業を現在まで守り続けています。特にも浄法寺塗は、とても良質で、日光東照宮陽明門などの日本を代表する国宝建造物の修復に使われ、日本の文化を支えています。この物語は奥南部、安比川流域の人々が、漆を大切にそして誇りに思い、伝統技術・漆文化を繋いできた物語です。安比川を流域とする八幡平市の旧安代町と二戸市の旧浄法寺町は、漆に関わり暮らす人々が安比川で密接に繋がり、上流域では豊富な森林資源を基に木地作りが行われ、下流域では良質な漆が採れたことから漆掻きによる漆生産が行われてきました。中流域では上流からの木地を購入し、下流から仕入れた漆を塗って漆器を作る塗師が存在していたとのことであり、古くから安比川流域で一体的な漆器の製作が行われ、技術を代々受け継いできております。古くから一体的な漆器の製作が行われてきた安比川流域ですが、近年は八幡平市、二戸市と個々の取り組みとなっておりました。そこでこの日本遺産認定を受けるに際しまして、奥南部地域として産業・観光振興、地域の活性化など、地域が継続して発展できるよう、本年8月に日本遺産奥南部漆物語推進協議会を設立し、奥南部漆物語の魅力を国内外に発信し、地域に対する愛着と誇りを醸成し、誘客による人の交流と地域経済の活性化を図ることにより、活気あふれる地域を形成していく取り組みを推進することとしております。

岩手県滝沢市
齊藤　和博 都市整備部長

滝沢市は盛岡市の北西部、北上川にあります四十四田ダムの西側に位置し、稲作、野菜、酪農等を主体とした都市近郊型農業、またベッドタウンとして発展した市でございます。平成12年には人口５万人を達成し、人口日本一の村となりました。平成26年には人口日本一の村から、住民自治日本一を掲げ、市政へと移行し、地域の皆さんと行政の両輪で協働による市政運営やまちづくり活動に取り組んでおります。川との関わりでございますが、多くの自然が身近にある当市の北西部には百名山の一つでもあります。主峰岩手山を仰ぎ、東端は北上川、南端は雫石川が流れており、市内には一級河川の諸葛川、木賊川などの中小河川が複数流れております。特にも北上川水系一級河川である諸葛川は昔からサケの遡上する川としても知られておりましたが、旧松尾鉱山からの強酸性坑廃水の影響により北上川が茶色に濁り、その姿は見られなくなりました。しかし新中和施設の稼働、四十四田ダムの建設などにより、サケの遡上する川としてよみがえりました。そのような中、地域有志によって、サケの遡上する諸葛川の景観を維持し、地域に貢献することを目的として「諸葛川愛護の会」が設立され、毎年地域の小学校児童や保育園児が卵から孵化させ育てたサケの稚魚を放流する自然学習の場が提供されております。また同会は諸葛川の桜並木の管理や河川敷の草刈りなどの自然環境保全活動を長年にわたって続けております。これらの活動が河川愛護等の功績として認められ、令和元年に日本河川協会より河川功労者表彰をいただいたところでございます。このように地域の方々と共に良好な河川環境の維持や自然への保護活動など河川愛護の心を育むことで、地域の宝ものという貴重な河川環境を守り続けてまいりたいと考えております。

岩手県盛岡市
谷　藤　裕　明 市長

盛岡市は、市の中心部を一級河川北上川が流れ、その右岸には雫石川、左岸には中津川、簗川がそれぞれ合流しておりまして、豊かな自然に恵まれたまちであります。そして、この四つの河川の上流部には全てダムがありまして、ダムに囲まれた町でもございます。

市役所裏手の中津川では、夏には鮎釣りを行い、秋にはサケが遡上し、冬には白鳥が飛来するなど、四季折々の変化を見せます。

北上川につきましては、「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」を開催しておりますが、四十四田ダムからスタートしまして、盛岡の中央にある開運橋までのコースとなっております。平成27年度には、世界最大のラフティングレースとしてギネス世界記録を達成しております。一番多かった時には、２人乗りのゴムボートが2,300艇参加しております。参加者だけで4,600人、応援隊入れると大変な数になる大会です。

また、280年前から続いております「盛岡舟っこ流し」がお盆の行事としてございます。

平成29年度には、川まちづくりに関連して、市民の皆さんが協力し合い木造舟「もりおか丸」の運航を開始しております。国土交通省の皆様の多大なる御協力のもとで行われており、河川の改修を含め、船着き場などの整備をしていただいております。ダムのほうで、水量調整していただかないとなかなか事業が進まないものですが、全て御協力いただいて順調に進んでおります。

令和元年度には、盛岡駅と市街地を結ぶ開運橋の川沿いエリアで、Park-PFI 制度を活用し、河川空間と一体となった新たな賑わいエリアをつくっておりまして、若者を中心に大変賑わっているところでございます。

それから、盛岡は何と行っても８月の１日から４日まで、さんさ踊りというお祭りがあるのですが、その太鼓パレードに使われる太鼓は約5,000個でありまして、世界一の太鼓パレードであります。皆で力を合わせて、町を盛り上げていこうと市民の皆さんが一丸となっているところでございます。

川に囲まれた町、盛岡ですので、今後も国土交通省の皆さんのお力をお借りしながら賑やかなまちをつくっていきたいと考えております。

首長サミット

岩手県矢巾町
高　橋　昌　造 町長

矢巾町は盛岡市の南隣の小さな町でございまして、それで矢巾町は、今、県の消防学校、それから岩手医科大学の災害時地域医療資金協力地になっているのですが、その防災と、去年の9月に医科大学の附属病院が盛岡市から矢巾町に総移転しました。そしてもう一つは総合医科大学でございます。医学部、歯学部、薬学部、看護学部の大学のキャンパスで、矢巾町です。まさに今、矢巾町は防災と医療と教育の町として日々発展をさせていただいているところでございますが、その中で今日は川サミットですので、二つのことをお話させていただきます。まず北上川に架かっております徳田橋です。この橋は昭和37年に架橋された橋なのですが、老朽化、そして疲労があります。この橋は盛岡市さんと紫波町さんでもつながる橋でして、これが令和５年の完成予定。それからもう一つは北上川水系の一級河川、この岩崎川ですが、平成25年の８月９日に大雨洪水によって、この岩崎川が氾濫して、矢巾町の中心市街地が甚大なこの被害にあったのです。そして平成26年度から今年度までかけて、総事業費61億1千４百万円をかけていただいて、この床上浸水対策特別緊急事業を、今年度完成予定となっております。このことについては県、そして国、ご当局の皆様方のおかげで完成できることに感謝を申しあげます。

岩手県紫波町
熊　谷　　泉 町長

私の町は、日詰地区の紫波中央駅前における駅前開発のオガールプロジェクトが、公民連携手法ということで、注目をいただいております。同じその日詰地区ですが、北上川に接しておりまして、昔から、水運で栄えた所であります。南部藩、あるいは八戸藩の、御蔵米を出荷し、また、江戸時代に近江商人である村井権兵衛さんという方が、酒造りで財を成してこの酒も江戸に送った場所です。15年ぐらい前は地域の方々が権兵衛丸という当時の小繰船を模した木工船を造りまして、何回か北上川をその権兵衛丸で下っておりました。今、その権兵衛丸を運行するのはなかなか大変で、町の真ん中のショッピングセンターに何年か展示しておりました。その方々は、じつはゴムボートを何台か買って、毎年８月に、小中学生を乗せ北上川の川下りをしております。大変人気のある行事で、川を下り、非常にスリルがあるので子供たちに人気があります。町では、過去平成14年、19年、25年に豪雨災害で、床上浸水した地帯がありました。その後、ボート愛好家の方々と、災害時にゴムボートを提供していただく協定を結んでいるところでございます。それに赤石地区でありますが、国土交通省には、北上川の築堤作業を進めていただいており、引き続き早期の完成をお願い申し上げ、紹介とさせていただきます。

岩手県花巻市
上　田　東　一 市長

花巻市は、この一関市から約60km北にありまして、町の真ん中、市の真ん中を北上川が流れております。その北上川の西岸にイギリス海岸があります。なぜイギリス海岸があるのかと思われますが、約100年前に宮沢賢治が、この青白い泥岩が、当時は浮かんでいました。水の上にあった、ここを歩くとイギリスの海岸を歩いているようだということで名前をつけたわけでございます。じつは今、残念ながらこのイギリス海岸の泥岩は川の底に隠れています。そこで宮沢賢治の命日の９月21日に、この泥岩を川の上に出そうと河川国道事務所、そしてダム管理事務所の方々がダムの放流を止めて、この泥岩を川に出す努力を毎年してくださっています。大変すばらしい取り組みでございます。このことについて国交省の皆様に感謝申し上げ、そして花巻市の紹介とさせていただきます。

岩手県北上市
髙　橋　敏　彦 市長

花巻市さんの南、ちょうど南隣の市になります。北上川が流れている都市です。奥羽山脈から和賀川が合流しておりまして、北上川と和賀川の合流点に市街地が広がる町であります。江戸時代には盛岡、仙台、江戸と川を使った物流がありますが、その中継点になって発展してきた町です。北上川、和賀川はその水質、水底の、水の豊富さから東北随一の産業集積エリアになっておりますし、北上市も10箇所ある工業団地に290の企業に立地していただいて、おかげさまで今があると思っております。昭和29年、昭和大合併の時に北上川の北上という名前をいただきまして、今の北上市ができたわけであります。この今の北上川につきましては、無堤防地帯もあって最近の内陸豪雨があるたびに心配しておりますが、大きな恵みをいただいている川でもあります。合流点にちょうど桜並木がある展勝地があります。この展勝地、川から眺める景色が隅田川に次いで全国で２番目にきれいだと言われています。来年、この展勝地が100周年を迎えるにあたって、４月に全国桜サミットが開催される予定にもなっています。ぜひ多くの皆様方にこの桜を見ていただきたいなと思います。今日、各地からお出でいただいた皆様に大いに歓迎を申し上げ、そして主幹の一関市さんに敬意を表しまして報告とさせていただきたいと思います。

岩手県遠野市
奥寺　国博 環境整備部長

遠野市は北上川の位置から見ますと、真ん中ぐらいから東側の北上高地側に、車で１時間ぐらい離れた所に位置しており、市内には猿ヶ石川が流れています。今年は遠野物語、発刊110周年の年です。遠野市ならではの川との関わりというテーマであります。遠野物語にはカッパの話があります。55話の冒頭に「川にはカッパ多く棲めり。猿ヶ石川は殊に多し」とあります。猿ヶ石川は北上川の支流の一級河川であり、その支流の、小烏瀬川、その支川のほうにカッパ淵があります。遠野物語の背景には厳しい暮らしを強いられた歴史、それを象徴するのがカッパです。古来、遠野地方は幾度となく、凶作や飢きんに見舞われてきました。もっとも厳しい時は人口の約６分の１が失われたとも言われています。そこで必要に迫られたのが口減らしです。栄養状態や生活環境が不十分で、あまり健康でない子供はカッパの子と見なされ、カッパの神様の元に帰す風習がありました。遠野のカッパの指が３本であったり、顔が赤かったり、そういった部分も子供の象徴であったと考えます。現在のカッパ淵には今も生息していると言い伝えがあります。もし遭遇したら捕まえてみたいと思いませんか。カッパ淵では釣り竿を使ってカッパ釣りができます。淵の近くにある釣竿は自由に触ることができるのですが、あらかじめカッパを捕獲するための「カッパ捕獲許可証」が必要です。市内の観光案内所において有効期間１年、または有効期間５年、顔写真入りの捕獲証を購入していただいて、川に釣糸を垂らし、ゆったりとした時間・空間を楽しみに遠野にいらしてください。

岩手県西和賀町
細　井　洋　行 町長

西和賀町は奥羽山系の東側にございまして、国道107号線の北上市と秋田県の横手市のほぼ中間に位置しております。町の南北を１級河川、和賀川が流れております。西和賀町は、その水源地であります。この流れが今、温泉と県立自然公園の核となり、湯田ダムによる錦秋湖に注ぎ、多彩な四季の魅力を湛えております。和賀川に注ぐ多くの沢がありますが、春には商標登録されております「西ワラビ」を中心とした山菜類、秋にはナメコやマイタケを中心としたキノコ類が人々の生活を現在に至るまで支えてきております。まさに母なる川、和賀川が西和賀町の豊かな大地を支えている地域資源です。今、西和賀町も川まちづくり計画書を策定いたしまして、地域振興の柱に据えて地域の魅力を向上させようと頑張っているところでございます。私が、この川まち事業にかける思いは水源地の地域の魅力を向上することによって、生まれ育っていく数少ない子供たちに水源地の魅力をたっぷりと教え込んで育てたいと思い、そして彼らが将来、地域に残って、この町の魅力をたっぷりとまた地域振興に役立てる、そのような人材を育てたいです。そのための大きな財産として川まちづくり計画を実現していきたいと思っております。

首長サミット

岩手県金ケ崎町
髙　橋　由　一 町長

金ケ崎町は、北上市と奥州市の間にある町で、北上川の関係は河口から約110km北上したところにあります。一関市から車で30分程のところにある小さな町ですが、歴史的には安倍一族が関係しており、平安時代には教科書にも載っている前九年の役と後三年の役の合戦の地でもあります。前九年の役で安倍一族は滅びました。その滅んだ安倍一族の末裔が前総理大臣の安倍晋三氏で44代目にあたります。また、安倍一族の子が藤原清衡であります。清衡は後に３代にわたり北上川沿岸の平泉の地に黄金文化を築きました。この様に私は歴史的な繋がりは川と共にあり、その地域に文化が生まれていると思います。

当町は、川の恩恵を頂きながら工業の町として、現在ではデンソー岩手、アイシン東北、シオノギファーマとトヨタ自動車東日本の生産工場が立地しております。そこで生産されているのが世界一の燃費を誇るアクアに始まり、C-HR、ヤリス、ヤリスクロスであります。当町で生産された車が皆さまにご購入いただいており感謝申し上げます。花巻市、北上市、当町、奥州市、平泉町及び一関市の北上川流域は岩手県の産業振興の中心地であり、産業振興は川で繋がっております。

当町は江戸時代までは伊達藩で南部藩との境に位置し、北上川の各所には船着場や船渡という地名が今も残ってますし、そこに運ぶ米を入れる橋場、倉橋といった地名も残っております。

当町は昭和63年に大きな水害にみまわれました。現在であれば洪水警報が発令されますが、気象庁からは大雨の情報だけでありました。降雨は一昼夜で511mmあり、これにより北上川の支流が氾濫し大きな被害を受けました。大洪水による被害は民家にもありましたが、田畑や河川及び道路などは甚大な被害を受け途方にくれた体験を聞いております。この被害の復旧には総額約136億円を超える事業費で、集中的に工事が行われ３年間で立派に復旧しました。この対応には国土交通省を始め関係機関の大きな支援・指導をいただき復旧できたところであります。このような経験から国、県、市町村が一体となって河川の在り方、災害未然防止対応、更には川文化にも繋がるよう幅広く課題解決をしなければならないと思っております。

本日の全国川サミットでは各市町村が発表されている事業の取組みが、サミットの成果を更に高めるものではないかと思い期待をいたすところです。

本サミットを担当頂きました一関市や関係された方々と国土交通省に感謝を申し上げます。

岩手県奥州市
小　沢　昌　記 市長

岩手の奥州市長の小沢でございます。10月25日、日曜日、３時過ぎから２チャンネルEテレで奥州市のカヌースラローム競技場で全国放送の全日本の大会がありますので、ぜひ見ていただければということであります。奥州市については、冊子を見ていただければ大体分かるということでございますので、このぐらいにさせていただきたいと思います。高村課長におかれましては日頃よりお世話いただいておりますことを感謝いたします。特に1929年にアメリカで大不況が起こった時に失業対策として行なわれたのが、TVAテネシー川流域開発です。それの日本版が、じつは北上川なんです。北上川バイオオーソリティーというかたちで５つのダムが造られて、そのダムによって北上川の上流が完全にコントロールされるということであります。これは国交省の技術と情熱をもって開発をしていただいた、整備をしていただいたということで、このことについては大きく褒められるべき事業であると思いますし、いよいよその最終形として一関の遊水地がもうすぐ完成するということであります。このことによって最後の発言者である石巻の亀山市長の所にも恩恵をもたらしていると。これは石巻で、北上川の水流さないでってなってしまうと大変なことになりますから、ぜひ引き続き北上川の河口を石巻さんには引き続きよろしくお願い申し上げ私の話とさせていただきます。

岩手県平泉町
青　木　幸　保 町長

ここは先ほど市長の挨拶にもありました東北の中心であります。下に宮城県、その中心であります。そして今いたる所を発掘いたしますと、愛知県から贈られたという甕がその破片がいっぱい出てきます。陸上ではこの北上川を水運の中、そして平泉へ、また平泉から、奥州市へといくわけです。平泉から奥州市と、一関のそのちょうど真ん中に、まさに黄金花咲く、その中心が平泉の都市文化であります。そういった意味では、この北上川の、まさに母なる川が、この黄金文化を生んだと思っております。おかげさまで2011年に世界遺産に登録となりました。たくさんの恵みをいただいての黄金文化の発祥であります。いずれ50年にも及んだ北上川の遊水地事業も、いよいよ最終部を迎えることになります。今後も母なる川、母なる大地と一緒に、黄金文化もさらに栄えて行くものと思っております。

宮城県栗原市
千　葉　健　司 市長

栗原市の紹介を簡単にさせていただきますが、先ほど勝部一関市長からもご紹介がありましたとおり、宮城県の最北端に位置する町であり、今、お隣の登米市長、そして平泉町長と、いわゆるハートランドという、４市町連携を組みながら地域連携を進めております。ちょうどこの四つの町を地図に上げますと、ハートの形に見えるので、そういうように勝部市長がつけたと思います。市の北西部には、名峰栗駒山があり、現在、紅葉の真っ盛りで、毎日、紅葉狩りにたくさんの登山客、観光客にお越しいただいております。また南西部には、伊豆沼・内沼湖沼群があり、本州で初めてラムサール条約に登録湿地になった所です。今、約10万羽のハクチョウ、水鳥たちが飛来をして、毎日、朝になりますと日の出とともに、日本の音百景にも選ばれました自然の声が聞こえてまいります。私の目覚まし替わりです。そういった音に恵まれた土壌、そしてきれいな清流の流れる穀倉地帯は、伊達藩一の穀倉地で、伊達政宗公も栗原の米を食べておりました。こういった豊穣な土地ならではの河川の氾濫は歴史が証明しており、現在も国土交通省様にはお世話になりながら、上流部の支障木撤去など堤防強化も含めてご尽力いただいているところです。今後も引き続きお願い申し上げたいと思っております。そういった中で、日本ジオパークに登録をしていただいたり、豊かな自然を利用しながら観光振興をはじめ、産業振興そして現在はトヨタ自動車東日本様の進出により、金ケ崎町から、大衡村間で、ちょうど中間地に位置している立地条件です。そのためトヨタ関連の工場にも多く進出していただいております。本来、基軸産業は農業でありますが、新しい産業振興も進んでいるところです。関東・東北豪雨、そして昨年も東日本台風など河川は甚大な被害を被り、必死に今、東北地方整備局様と、この問題を抱えながら、河川改修に勤しんでおりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

宮城県登米市
熊　谷　盛　廣 市長

登米市は宮城県の北部にあり、県境を挟んで一関市、そして石巻市、涌谷町、栗原市に隣接し、市内には北上川が通っております。江戸時代には米の生産と舟運で栄えた町でもあります。登米市は九つの町が合併しました。そのうちの一つの町である津山町が私の出身でございます。この津山町は北上川の改修で非常に苦労をした地域です。特に新北上川を作るときは集団移転をした地域もあります。過去の大洪水時には国土交通省さんにいろいろとお世話になりました。昨年10月の台風19号の時も私の出身の津山町は非常に大きな被害を受けました。現在も国や県などいろんなご支援をいただいて災害復旧も順調に進んでいるところでございます。

先ほどみなかみ町さんからのお話しを聞いて思い出しましたが、気仙沼市でカキ養殖をしている畠山さんという方がいらっしゃいます。この方の「森は海の恋人」という言葉を思い出しました。この方は一関市のほうで植林活動をずっと続けており、山を大切にしています。その山から流れ出てくる流木が台風被害に非常に大きな影響を及ぼすと思っています。おかげさまで、現在は災害復旧の事業を行っておりますけれども、山も少しは手入れをしないとダメではないかと私自身も感じておりますので、国からの森林環境税なども有効に使っていただきたいと思います。

皆様は登米市という名前よりも全国的に有名になった長沼ボート場という名前の方が聞いたことがあるかと思います。小池都知事が長沼ボート場を使ってこちらでオリンピックをやりたいということがありました。長沼ボート場は、2,000mの８レーンの常設ということで大変すばらしいボート場です。事前合宿にポーランドからも来られます。非常に期待しております。

登米市は水の里を目指しておりまして、河川のほかに、伊豆沼、内沼、蕪栗沼もありすばらしいところでありますので是非一度おいでいただきたいと思います。これからがシーズンでございます。朝、晩、大変すばらしい光景をご覧いただけると思います。

結びになりますが、来年春のNHKの朝の連続ドラマは登米市が舞台であります。今、撮影の真っ最中です。「おかえりモネ」という番組でございます。ぜひ皆様方にも見ていただきたいと思いますし、登米市の風景も沢山映りますので、よろしければぜひ来年の春には、そのドラマ見たうえで登米市においでいただければ大変ありがたいと思います。大歓迎をしておりますのでよろしくお願いいたします。

首長サミット

宮城県涌谷町
遠　藤　釈　雄 町長

涌谷町は、東に北上川、南に江合川、北に旧迫川に囲まれた町でございます。その真ん中に民謡「秋の山唄」の発祥の地である高さ236mの「箟岳山」があります。その周りが丘陵地となっており、最近では集中豪雨による内水排水が大きな問題となってきております。また、私たちが小さい頃は、涌谷からポンポン船と呼ばれた砂利輸送船などに乗って石巻の住吉公園に陣取り、川開き花火大会を鑑賞したもので、北上川には深い想いを抱いてきたところであります。

涌谷町は日本で初めて「金」が採れた町で、今から1270年ほど前になりますが、奈良の東大寺におよそ13kgの砂金を大仏様の鍍金にと、献上いたしました歴史がございます。金は当時、韓国や中国からの輸入のみでしたので、当時の聖武天皇は大変喜ばれまして、元号を「天平」から「天平感宝」に改元しました。天皇の喜ばれた様子を万葉歌人の大伴家持が「天皇（すめろき）の御代栄えんと東なるみちのく山に金花（くがね）咲く」と詠まれました。このことから日本の、涌谷町の金の歴史が始まったとされております。南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市、そして世界遺産の平泉町と２市３町で取り組んでいた金にまつわる歴史ストーリーである「みちのくGOLD浪漫」が、昨年５月に日本遺産に認定されました。涌谷町から始まった金の歴史が、世界遺産平泉町に続く道をイメージしますとその道は、北上川ではなかったのか、という考えを持っておりそのイメージを持って観光事業に取り組んでおります。

涌谷町の一番のイベントは、江合川河川敷で行われる「東北輓馬競技大会」であります。満開の桜の下、素晴らしいロケーションの中で、北上川下流河川事務所の所長さんをお招きして、毎年開催しております。残念ながらコロナ禍の関係で70回目となる今年の大会は中止となりました。また、夏祭りですが、数年前からは若者が中心となり、野球場となる涌谷スタジアムで行っておりましたが、以前のように河川敷を主会場とした方が夏祭りの雰囲気が出る、商店街と川の結びつきを深めたい、川がないと祭りらしさが出ないとのご意見が出され、今後行われる夏祭りは河川敷に戻そうか、という状況が醸し出されております。

「日本初の産金地　涌谷町」と金の文化花咲く平泉町とのつながりを考えるとき、この２つの町の金の歴史を繋ぐ、その道は北上川ではないか、という思いを強くしているところであります。東北の金の歴史を訪ねてまずは、どうぞ涌谷町にお越しくださいますよう、ご案内を申し上げます。

宮城県石巻市
亀　山　　紘 市長

石巻市は、北上川の河口に位置し、宮城県北東部地域を代表する風光明媚な都市です。

市内を流れる北上川は、仙台藩主・伊達政宗公の命を受けた川村孫兵衛重吉翁の指揮の下、江戸時代に大改修が行われました。石巻から盛岡まで舟運が開かれ、水運の要衝として「川湊」の役割を担い、その「川湊」の繁栄とともに発展してきた本市にとって、川と人々の暮らしとの係わりは非常に深いものがあります。

しかし、平成23年に発生した東日本大震災では巨大津波が河口を遡り、沿岸部のみならず川沿いからも市街地へ水が押し寄せ、広範囲に甚大な被害をもたらすこととなりました。

本市では災害に強いまちづくりを推進するため、復興計画を策定し、国による河川堤防の整備にあたり、「かわ」と「まち」を分断しない水辺環境や景観に配慮した石巻らしい復興を成し遂げるために、「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」と連携した「かわまちづくり」を展開しております。

「かわ」と「まち」をつなぎ、人が集い、憩う場所として親しんでいただけるような水辺空間を整備し、新たな魅力と活力のある街の創造を進めております。

市中心部の中央地区に新たに整備された堤防一体空間は、堤防幅が広いところで17mございますので、キッチンカーによる営業活動や音楽祭などのイベントが行われ、水面では水辺に親しむカヌー体験など様々な用途に利活用されており、沢山の人が集まり賑わいを取り戻しております。

明るい日中はもちろん、水面に映る明かりが美しい夜景スポットとして夜も楽しんでいただけるよう、夜間の景観にも配慮しております。

「かわまちづくり」につきまして、国土交通省の皆様には本当にお世話になっております。見違えるような水辺空間になりました。

是非、お近くにお越しの際は、お立ち寄りいただきたいと思っております。

歓迎交流会

ベリーノホテル一関「南の間」にて首長サミットが開催された後、同ホテル「西の間」で歓迎交流会が開催されました。

乾杯のご発声を頂戴した槻山隆一関市議会議長が組合長を務めている本寺ブルーベリー生産組合のブルーベリーサワーで乾杯し、北上川流域にゆかりのある日本酒などのほか、一関市の特産品である「餅」をはじめとした地元の食材をふんだんに使用した料理が振る舞われました。

勝　部　　修
一関市長

槻　山　　隆
一関市議会議長

山　本　公　徳
岡崎市副市長

菊　池　　哲
岩手県副知事

全国川サミット in 一関　開会式

◆開　催　日　時	2020年10月17日（土曜日）
◆会　　場	一関文化センター　大ホール
◆オープニングセレモニー	ミスさんさ踊りとミス太鼓連の皆様によるさんさ踊り
◆開　会　挨　拶	勝　部　　修　一関市長
◆来　賓　挨　拶	岩手県副知事　　菊　池　　哲 様
	東北地方整備局　河川部長　國　友　　優 様

第29回全国川サミット in 一関の２日目は、ミスさんさ踊りとミス太鼓連の皆様によるさんさ踊りで始まりました。盛岡さんさ踊りは毎年８月１日から４日まで開催される、勇壮な太鼓の音色と華麗な踊りの群舞が魅力の岩手を代表する夏祭りの一つです。盛岡さんさ踊りの合いの手に「サッコラチョイワヤッセ」との掛け声があり、これを漢字で書き表すと「幸呼来」と書きます。ご来場の皆様にも幸せが訪れますよう願いを込めて踊っていただきました。

そのあと、勝部　修 一関市長から会場にお越しいただいた皆様へのご挨拶を申し上げ、来賓の菊池　哲 岩手県副知事、國友　優 東北地方整備局河川部長よりご祝辞を頂戴しました。

勝　部　　修
一関市長

菊　池　　哲
岩手県副知事

國　友　　優
東北地方整備局河川部長

事例発表

❶ 川とのふれあい ～北上川と私たち～

金　野　和　則
[NPO法人 北上川サポート協会]

私たち北上川サポート協会は、岩手県と宮城県を流れる北上川をステージに活動している川の大好きな団体です。私たちが住む一関市川崎町は、総延長249kmの北上川、宮城県石巻市の河口より75km上流の中流域と呼ばれる場所にあります。

私たちの活動は大きく五つに分けて、水辺創造活動、自然学習活動、環境保全活動、人材育成活動、支援交流活動などの事業を展開しております。そのほかに国土交通省の北上川河川調査船「ゆはず」の運行、川崎防災センターの指定管理を行っております。

私たちの住む地域は北上川のすぐ傍にありますが、この場所は狭さく部に位置し、地形的要因から、特にも川崎町は洪水の常襲地でした。そのため川は被害をもたらすもの、危険な場所というイメージが強いものとなっていました。平成14年の洪水の際、川崎地域においても甚大な洪水被害を受けましたが、現在は堤防が完成し、被害を受けることはほとんどなくなりました。

私たちは川との触れ合いを通じて川の大切さをより多くの皆さんに知ってもらい、体験してもらうために、先ほどお話した水辺創造、自然学習、環境保全、人材育成、支援交流の五つを中心に活動しています。

私たちには活動の原点があります。

「川とケンカするより仲良くしよう、川と共に生きる川崎」

旧川崎村時代に始まった北上川流域交流Ｅボート大会です。今年、第26回を迎える大会は、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、このイベントは地域の一大イベントで、私たちは主管団体として大会運営に携わっています。支援交流活動の一つとして、官民一緒に大会運営を行っているＥボート大会で、私たちは地域の交流をより一層深めています。

私たちには、川との触れ合いを大切にしながら、人と人との交流も大切にしています。活動の中で人材育成活動があります。協会員が安全に活動できるようにすることが目的ですが、ただそれだけではなく、私たちの活動全てが人材育成だと思っております。

私たちは学校での授業にも携わる機会をいただいております。子どもたちが大きくなったとき、「川が大好き」になってくれたら嬉しく思います。実際、関わりを持ってくれた子どもたちが大人になり、私たちと一緒に活動をしています。

活動の中で欠かせないのは協会員です。全員ボランティアで行事に対応しています。様々な職業の皆がいて、それぞれの特技を活動の中で生かしてくれます。年々スタッフは年を取っていき、大変な部分もあります。しかし、その中でも私たちは自分たちができることを楽しみながら活動をしています。私たちは今後も自分たちができる活動を行い、川との触れ合いを大切にしていきます。そして、川の活動を通じて、今後も地域づくりに携わっていきます。

② 大原の歴史深訪と鉄作り

一関市立大原小学校　６年生

砂鉄川は、源流を大原内野地区に発し、国の名勝である猊鼻渓を流れ、北上川に注ぐ一級河川です。私たちにとっては、生活の面でも観光の面でもなくてはならない身近で大切な川です。大原では江戸時代から明治初期にかけて製鉄が盛んに行われていました。なぜ盛んに行われていたかというと、まずは砂鉄が豊富に採れたことが考えられます。内野の山には花崗岩に含まれた良質な砂鉄があり、かつては仙台藩最大の砂鉄産地でした。周囲の山々はその名残とするホッパ山と呼ばれる砂鉄採掘跡が多くあり、その砂鉄が川に流れ込み、砂鉄川の名前の由来となっています。

また、砂鉄川のきれいな水が森を潤し、豊かな木が育ちます。その良質な木から良質な木炭がつくられます。さらに土、きれいな水、良質な土によって、質の良いたたら製鉄炉がつくられます。良質な砂鉄、良質な木炭、水、土。このように豊かな自然に育まれたものによって、ここ大原で鉄づくりが盛んに行われていたと考えられます。

実際に鉄づくりを行ってみて、私たちはたくさんのことを学びました。まず製鉄に到るまでの過程について、今でこそ当たり前のように鉄製品が身近にありますが、昔は多くの苦労の上にできており、先人の知恵と苦労に驚かされました。また、砂鉄採取から鋳造所による製品化までの一連の流れを体験することによって、製品が世の中に出て行くものづくりの過程を見ることができました。一つの製品に数多くの方々が携わって、たくさんの努力があって私たちの手元に届くのだということが分かりました。とても貴重な体験になりました。

そして、私たちの地域のすばらしさです。私たちの住む大原地区は、緑豊かな山々に囲まれ、その山に源流を発する砂鉄川というきれいな川が流れています。その砂鉄川から採れる砂鉄を使い、たたら製鉄が盛んに行われてきました。学習を進めていく中で、このたたら製鉄が継承されてきたのは、豊かな自然のおかげだけではなく、そこに住む人々の力によって継承されてきたという事に気づかされました。このようなすてきな地域に生まれたことを誇りに思い、たたら製鉄を継承しながら、砂鉄川という川を大切にしていきたいと思います。

③ 石巻市・旧北上川における「かわまちづくり」の展望

株式会社 街づくりまんぼう

街づくりまんぼうは、今から20年近く前に設立された第三セクターで、石巻市の中心市街地を活性化させることを目的に設立された会社です。中心市街地に流れる北上川に中瀬と呼ばれる中州があり、そちらに石ノ森萬画館というマンガ美術館があります。そちらのほうの運営を弊社がさせていただいており、マンガ関係のグッズ、萬画館自体の運営、そこで得た収益を中心市街地に投資するなど、石巻市のマンガを生かした街づくりをいろいろ展開しています。

例えば、街中にいくつもマンガのモニュメントがございますが、そういったものの管理やマンガを生かした様々なイベントなども開催しております。

石巻市について、人口14万人、2005年に合併しておりますので、半島であったり内陸であったり、非常に大きい自治体になっております。

50年ほど前は肩がぶつかるほど賑わっていた商店街が、現在は津波の被害もあって、かなり寂しい状態になっています。そこを活性化させるために、かわまちづくりであったり、マンガを生かした街づくりを進めております。

東日本大震災によって、この海から押し寄せた津波で石巻市は大きな被害を受けるのですが、中心市街地は直接海から津波の被害を受けてはおらず、この北上川を逆流して遡上してきた津波によって大きな被害を受けました。

北上川の河口部について、古くは江戸時代、一関や盛岡から運ばれてきたお米を石巻の川港で千石船に積み替えて江戸に持って行く、ということで栄えた川港になります。そのため、川の岸には建物がずらっと昔から並んでいる。この風景こそが、石巻の人たちにとって原風景になっている。川と密接に暮らしてきた、というのが心の中に刻まれております。それは震災前まで続いており、一級河川ではありますが、川に非常に近いところに建物が並んで、船が着いたりしていた景色がありました。まさに石巻の街の風景、川の風景は、この旧北上川と密接につながり、暮らしや、いろんな小さい頃の思い出もつながってつくられてきたものであったと言えます。

ところが2011年３月11日の東日本大震災で、石巻市の中心市街地は大きな被害を受けました。どこまでが川か、どこまでが陸地かというのが分からない状態になっていました。元々堤防がなかったところにこのような被害を受けて、堤防をつくるという事業の計画が、国それから県、自治体のほうで進められているわけですが、地域の方々、街の人たちにとっては、街に堤防ができるということは、今まで密接していた自分たちの暮らしや川とのつながりが廃れてしまう、という非常に大きな危機感を抱くことにつながりました。

震災後間もなく、これは自分たちが中心になって、川のすぐ側にやぐらを建てて、実際にどれぐらいの堤防の高さであれば川とのつながりを失わずに、途切れさせずに、景観や街づくりを考えていくことができるかということを、高所作業車を使いながら検討を進めていきました。

一方で、石巻市役所でも、この川を生かした街づくりというのは震災前から進められており、この河口部だけではなくて上流も含めた、水辺と緑のプロムナード計画、一体として川を楽しめる地域づくりを進めていこうという計画がございまして、震災後も、この堤防が計画されて整備された後も、この計画を遂行していくという流れがございます。そのような民間側の川を生かした街づくりを進めていく、行政サイドでの川を生かした街づくりを進めていくという形を、どういう形に合わせて現実に落とし込めるかということを、震災後ずっと喧々諤々の議論を交わしていった結果、特に河口部に関して、現在のように堤防を整備し、かつ街づくりを進めていこうという方針が決まりました。

ところがこの作られた景色というのは、数十年前、あるいは震災前の石巻の川の景色とは大きく異なります。工夫してつくられた堤防によって、川とのつながりをなるべく途切れさせないように、という工夫はされましたが、やはり地元の方々からすると、これが石巻の元々の川街の風景とは、必ずしも思えない方々がいらっしゃいます。ただ実際はものすごく洗練なデザインがされた場所ですし、ここで私たちもいろいろなイベントを企画していて、非常に川の恩恵というか、気持ちの良い空間になっております。

街づくりまんぼうは現在、様々な企画をここでさせていただいておりますが、私たちが課せられたミッションは、この新しい川街の風景をいかに石巻の人たち、石巻市民の誇りと憩いの場へと変えていくかということを、今一生懸命になって活動しているところです。行政でもいろいろ検討、工夫をしていただいており、河川空間のオープン化に向けて、都市・地域再生等利活用区域の指定をするなど、歩み寄りながら社会実験を進めております。

私たちは、この川街の空間を、堤防一体空間と呼んでおりますが、そちらに市民をはじめ観光で来られた方々がたくさん集まっていただき、いろいろな思い出をつくって地元に帰っていただいたり、あるいは家に帰って日々の暮らしをしていただく。それだけではなく、ここに訪れた方々が、マンガのモニュメントがいっぱいある商店街のほうに回遊していただくなど、ここを起点に人が集まって、街中に広がっていくということも進めていきたいと思っております。

多くの街の方々、市民の方々が、あれやりたい、これやりたい、やってみたい、ということを一つひとつ実現する場ができれば、きっとそのエネルギーに変えていけるんだろうな、ということを活動していく中で感じましたので、今年１年いろいろなイベントを私たち主体で企画してきましたが、いずれここで何かをしたい！という方々が不自由なく、企画や体験、学びをできるようにすそ野を広げる活動と周知をこれから一生懸命に頑張っていきます。中心市街地自体も震災後大きく街並が変わっていますが、新しい街の風景を14万人いる石巻市民の方々が、街の誇り、自慢の場所にできるように、これからも活動していきます。

記念講演

防災（サイ）エンスショー

～楽しく科学・伝える防災～

【講師】
サイエンスインストラクター・防災士
阿　部　清　人 先生

阿部清人先生は、身近なものを使った、あっと驚く科学実験をわかりやすく紹介するサイエンスショーが大好評。ユーモアを交えた楽しくわかりやすいトークで、子どもから大人までをサイエンスワールドに引き込み、ショー、テレビ、新聞掲載等メディアへの出演も多数おこなっています。また、防災士の視点から防災に役立つ実験を行う「防災（サイ）エンスショー」が注目を集めており、放送や講演を通じて新しい防災のあり方についての提言を発信し続けています。

阿部先生は石巻市出身で、まずは石巻市で川の思い出からスタート。記念講演は髪の毛の静電気を使った電球のパフォーマンスから始まり、東日本大震災当時のお話になりました。震災当時、先生はFMいずみのアナウンサーをしていましたが、防災士の資格を既に持っておられました。テレビが繋がらない日が続く中で、ラジオ放送で交通情報や安全確保の仕方、寒さのしのぎ方など様々な放送を繰り返し行ったそう。そういった話を交えながら、振り子を使った周期の実験をしました。LEDを使った実験からリチウムイオン電池の蓄電のお話や、回転式の蓄電、災害時の電話がつながらない時電話局では何をしているのか、さらには計量カップとピンポン玉を使った液状化現象の仕組みの解説と実験を行いました。最後にドライヤーとパイプを使った気圧の実験、そこから台風の仕組みへと繋げていただきました。会場のお客さんを巻き込んだ実験や、そこから地震や水害にどう備えるかのお話をたくさんしていただき、会場はとても盛り上がりました。

サミット宣言～閉会式

第29回全国川サミットin一関は、事例発表を行った一関市立大原小学校６年生の皆さんにより高らかにサミット宣言が読み上げられ、川の果たしてきた役割や恵みなどについて、理解を深め、これからも自然環境の保全を地域づくりに取り組んでいくことを誓いました。

続いて、勝部修一関市長から次回開催地の愛知県岡崎市山本公徳副市長へサミット旗が渡され、山本副市長から次回開催に向けた意気込みや多くの方々のご来訪を期待する旨のご挨拶をいただき閉会しました。

サミット宣言

サミット旗授与

参加自治体　記念写真

第29回全国川サミット in 一関　共同宣言

北上川は、岩手県の岩手町御堂にある「ゆはずの泉」を源泉として、岩手県中央部を北から南に縦貫し、宮城県の石巻市から太平洋に注ぐ、長さ249km、流域面積１万150㎢の東北地方最大の河川です。

「第29回全国川サミット in 一関」は、東北地方のほぼ中央「中東北の拠点都市一関市」を会場に、「黄金（くがね）花咲く北上川 ～悠久の歴史と未来～」をテーマに開催します。

古より親しまれてきた「北上川」は、今もなお人々に安らぎを与えており、その流域の広さから江戸時代は舟運の大動脈として、また豊富な水量は灌漑用水として北上盆地や仙北平野を潤し、人々の生活を支え続け、世界遺産平泉を始めとした文化歴史の発展に大きく寄与してきました。

今も昔も恵みをもたらし続ける川の大切さを再認識するとともに、次世代に向けてより良い川との共生を図っていくことを誓い、ここに宣言します。

○わたしたちは、先人が築いた、恵みをもたらす川の歴史や文化を守り、次世代へ引き継いでいきます。

○わたしたちは、災害から命や大切なものを守るため、防災への意識を高め、災害に強いまちづくりに取り組みます。

○わたしたちは、川とのふれあいを通して、ひとりひとりが川に興味を持ち、大切に守ることで、川を愛する豊かな心を育みます。

○わたしたちは、川と共存した美しいまちなみと、多種多様な生き物が生息する豊かな自然環境の保全に努めます。

○わたしたちは、人と人とのつながりを大切にし、自治体の境を越えて、川に関わる人々の交流の輪を広げます。

令和2年10月17日

第29回全国川サミット in 一関　参加者一同